

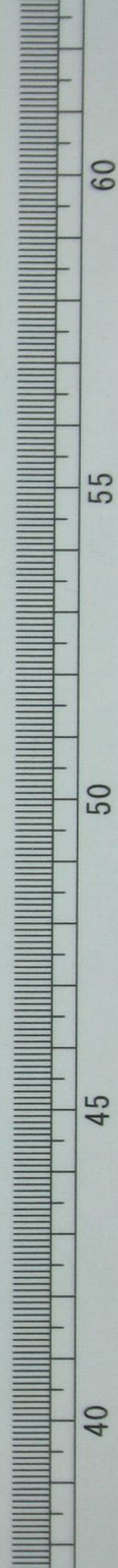
改撰

大工棟田長司著初心圖解初編

下

知
29

多
1911
2 止



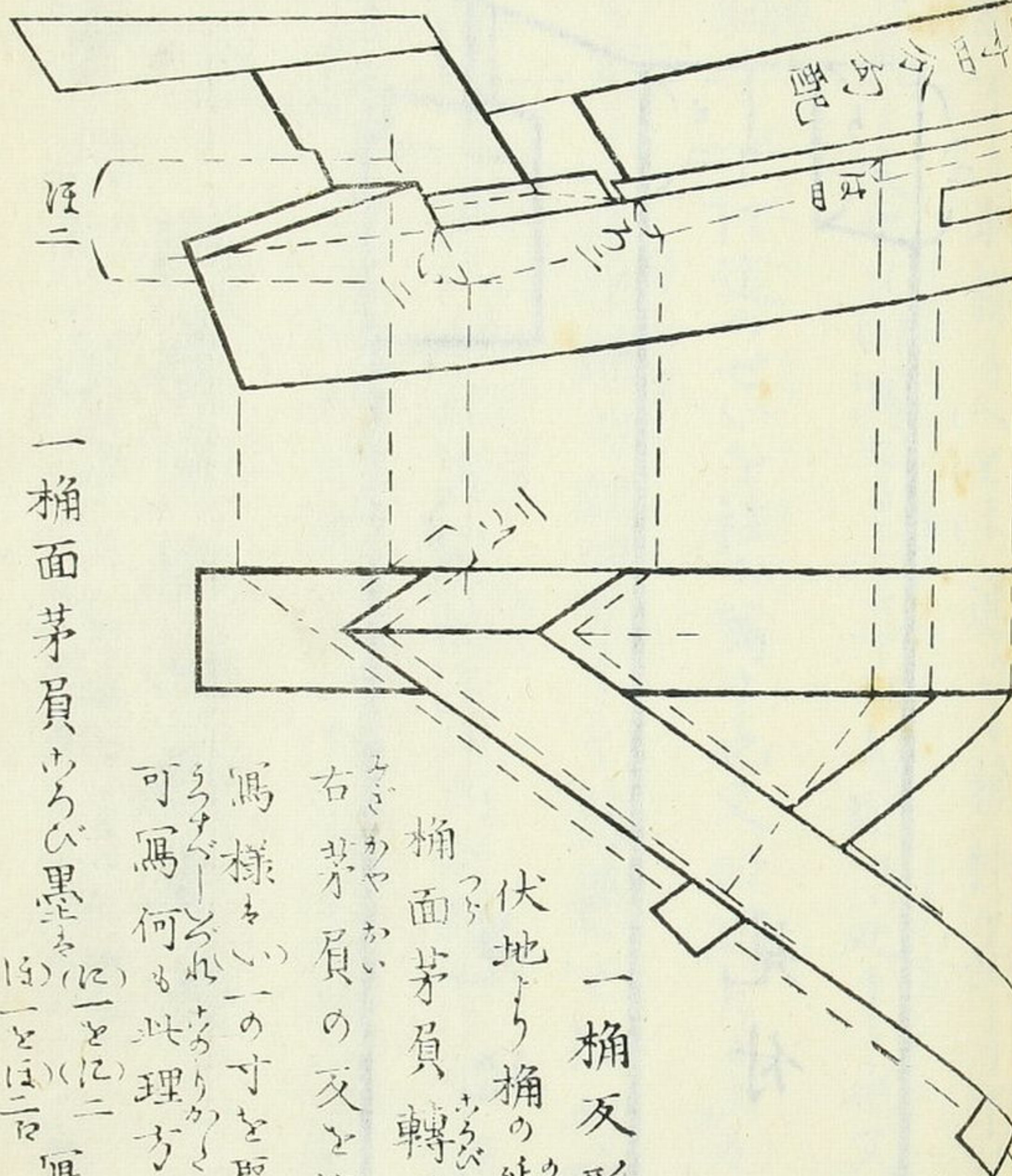
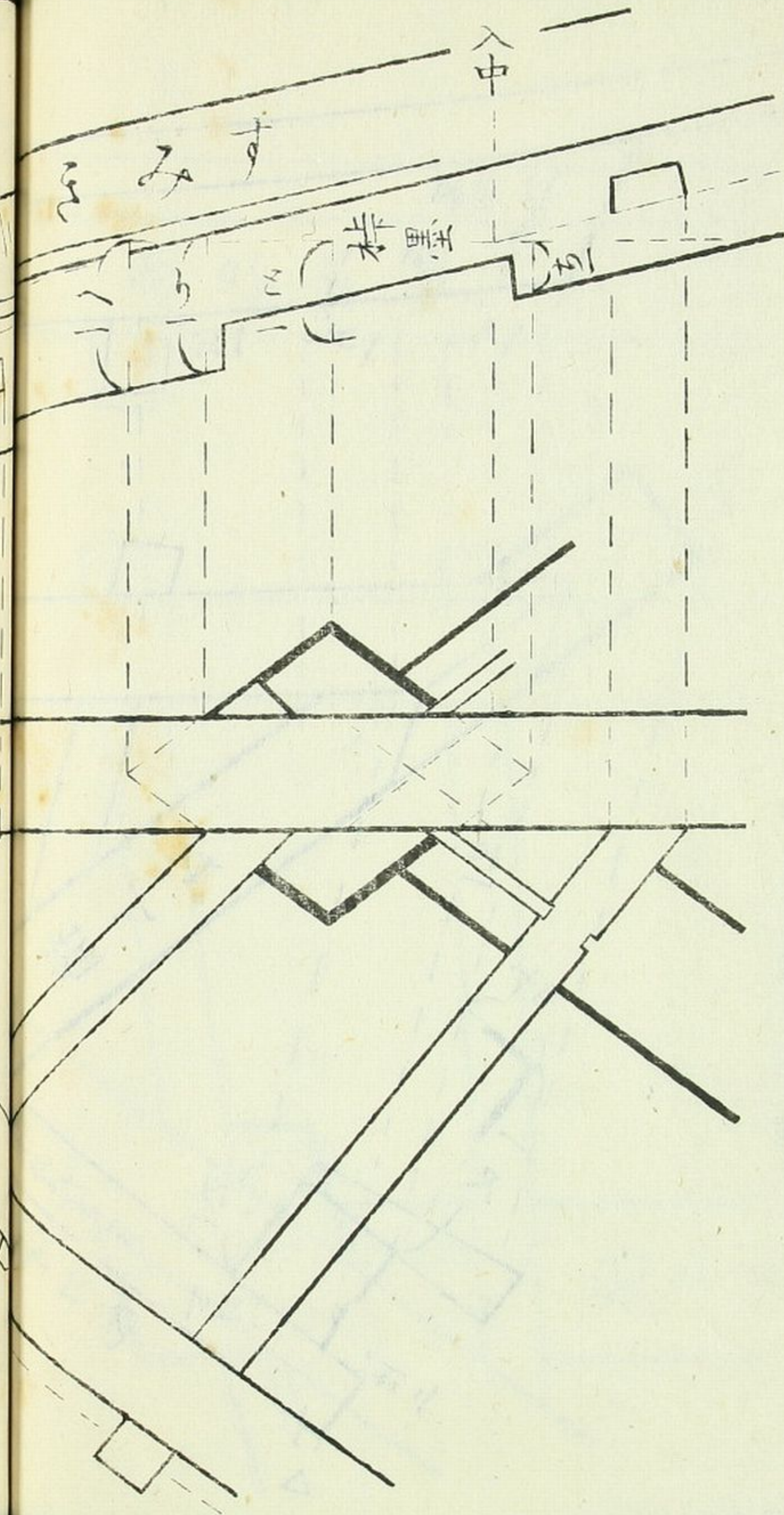
1911

改撰 大工初心圖解初編卷之下目錄

一	一尺付七寸五下振地桶伏地茅負反形番	十	上木作振隅鶉拴伏地番
二	同伏地並桶反形取樣	一十	同伏地
三	同琴定規柱桶落懸	二十	同建地
四	同振地割	三十	同上木配付並鶉拴穴
五	同橋長取樣並同配付伐樣	四十	同上木流四寸勾配方配付
六	同一の癖榑配付又伐樣	五十	同茅負反形
同	同榑癖木口取樣	同	同茅負反を立水直樣
七	真曲尺極棒桶差口穴墨番	七十	同上木組合
同	同棒桶	同	同本柱に桶差口下端勾配
八	同桶面鼻隱轉墨	八十	同桶反形
同	同桁真曲尺榑配付	九十	同井筒桁桶落懸
九	同鼻隱向留	十二	同桶口脇墨打樣
同	同廣小舞下端留	一廿	同鶉拴穴墨癖出樣
同	同藥研桶隅伐樣並留曲尺	二廿	同茅負木口癖仕樣

大工初心圖解初編卷之下

同伏地並
桶反形取様

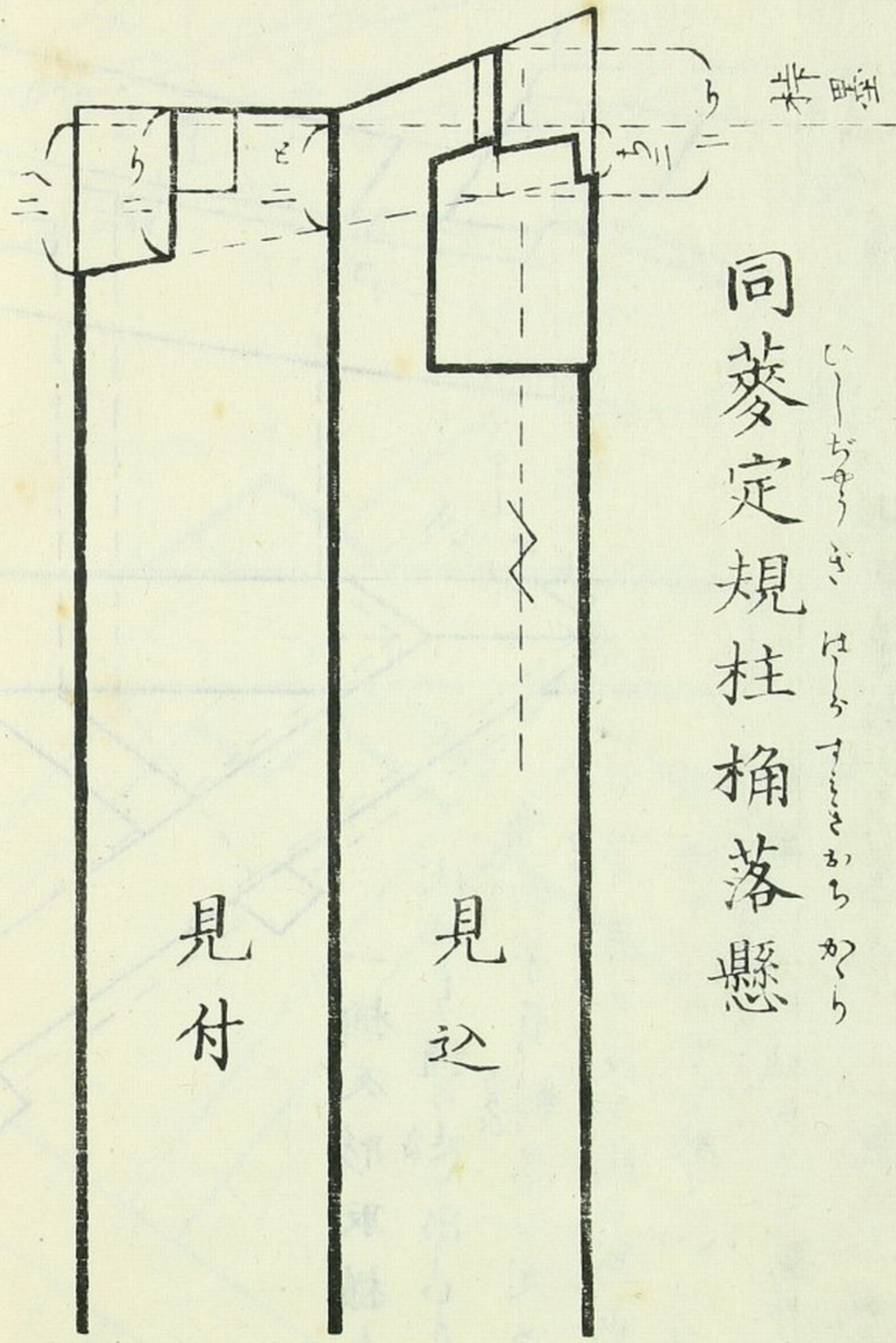


一桶反形取様
伏地より桶の延を出し
桶面茅負轉墨を定め
右茅負の反と桶の馬也
馬様をい一の寸を取て二は
可寫何も此理方にて馬あり
一と二は馬て定あり

大工新心圖角不為卷之一

同菱定規柱桶落懸

いしぢきりぎはしすしとちりかり



見込

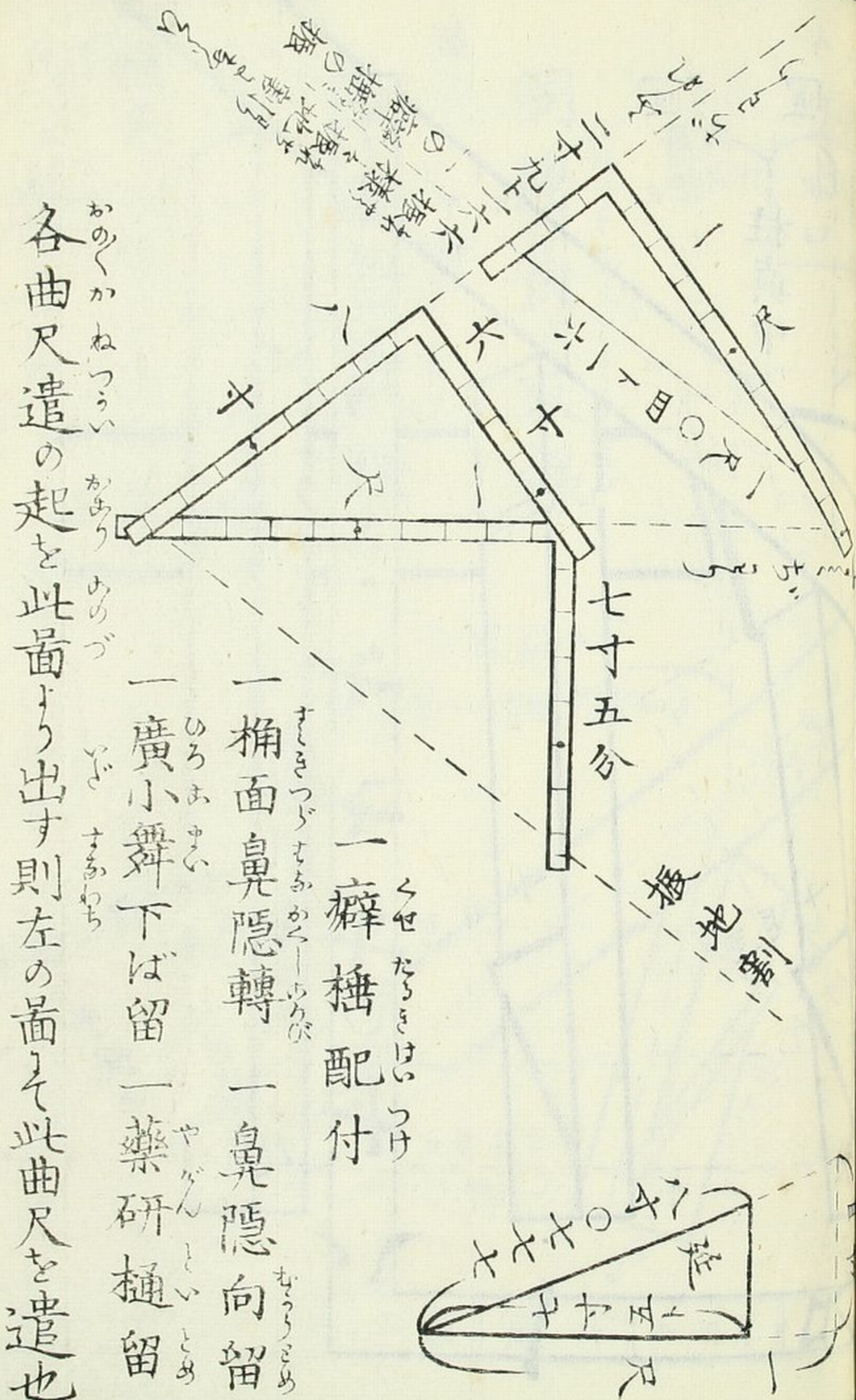
見付

一 落懸 下り取様とへ(と)ち通りと桶持墨より下げ迄の下り
 を柱に寫す文也又曰寫たる上と下げ勾配も定まる也又(り)通り八
 桶口脇より下げ迄のせいを柱に寫す也又曰寫たる上と柱胴突
 勾配も定まる也平榑勾配四寸より落懸下は勾配壹寸九
 分二りもある也又曰見付見込とも同勾配あり柱胴突勾配
 三寸八分四りもある也桶勾配二寸四分もある也桶持墨を入中
 榑下げ墨のいつぢより出す也一木割榑と下げ壹寸は付せい
 二分増也茅負と榑下げ二本の角也又曰鼻は二分増あり

裏甲見付を榑下は程よて鼻二分半増りり幅を茅負の
 大は二枚致し一枚出す也桶を榑下げ二本を下げとす同せい
 と榑下げとせい程あり桁の下げと桶下げの裏目よてせいを
 其す二分分一也尤桁の大は是を茂榑より出したる割は
 不有也又此部榑間も茂榑より出したる小間ありよ
 りさず六尺を四割の圖あり

同振地割

並同振地七寸五分は平榑勾配を引上たる延
 一名配延

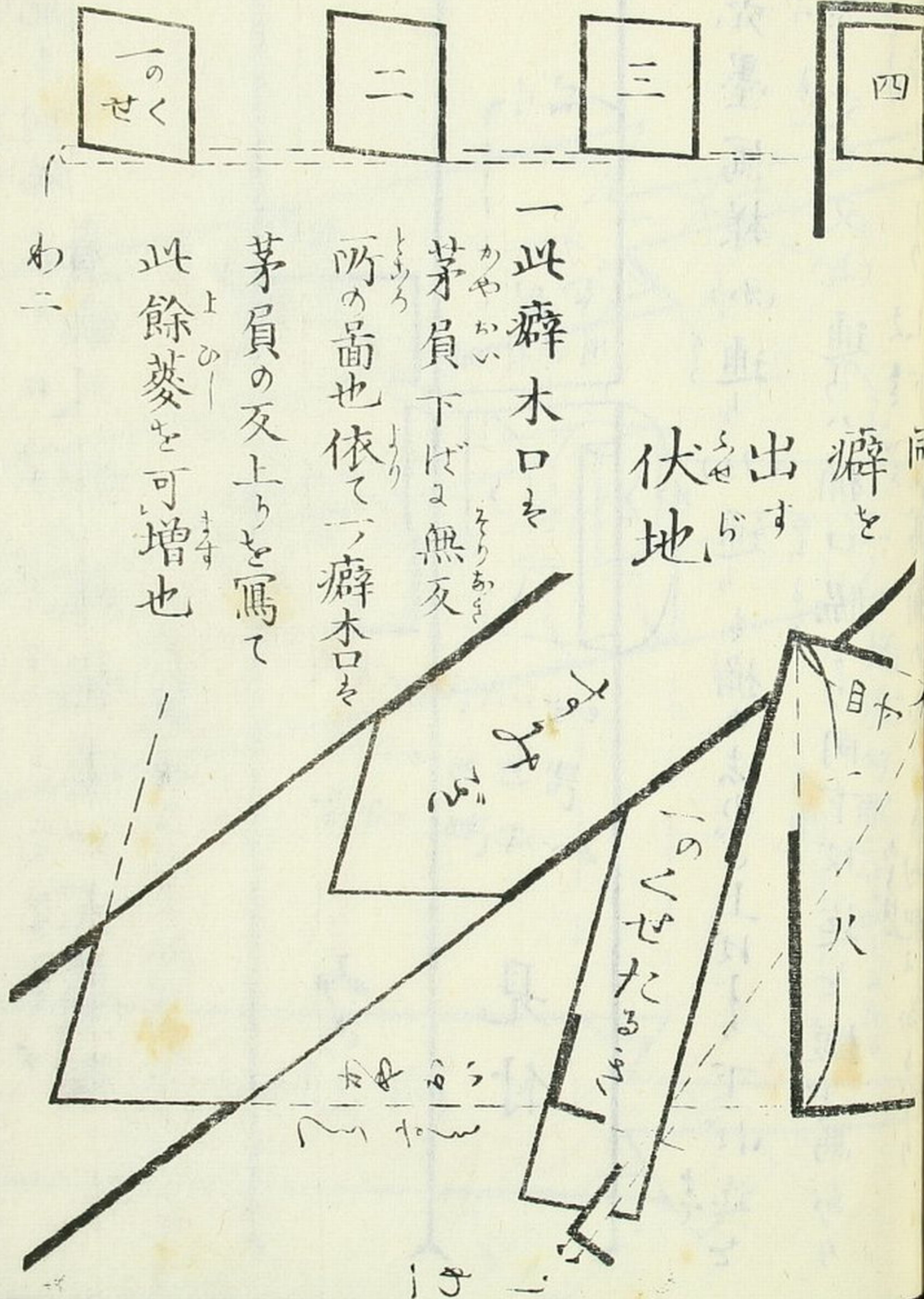


各曲尺遣の起を此箇より出す則左の箇を此曲尺を遣也

- 一 癖榑配付 (Kuse-bayashi baichu)
- 一 桶面鼻隠轉 (Tsubo-omotebina kakuruma)
- 一 鼻隠向留 (Hina kakuruma)
- 一 廣小舞下は留 (Hirosanobumi shimo wa domete)
- 一 藥研榑留 (Yakugan-bayashi domete)

大工初八箇角不糸巻之

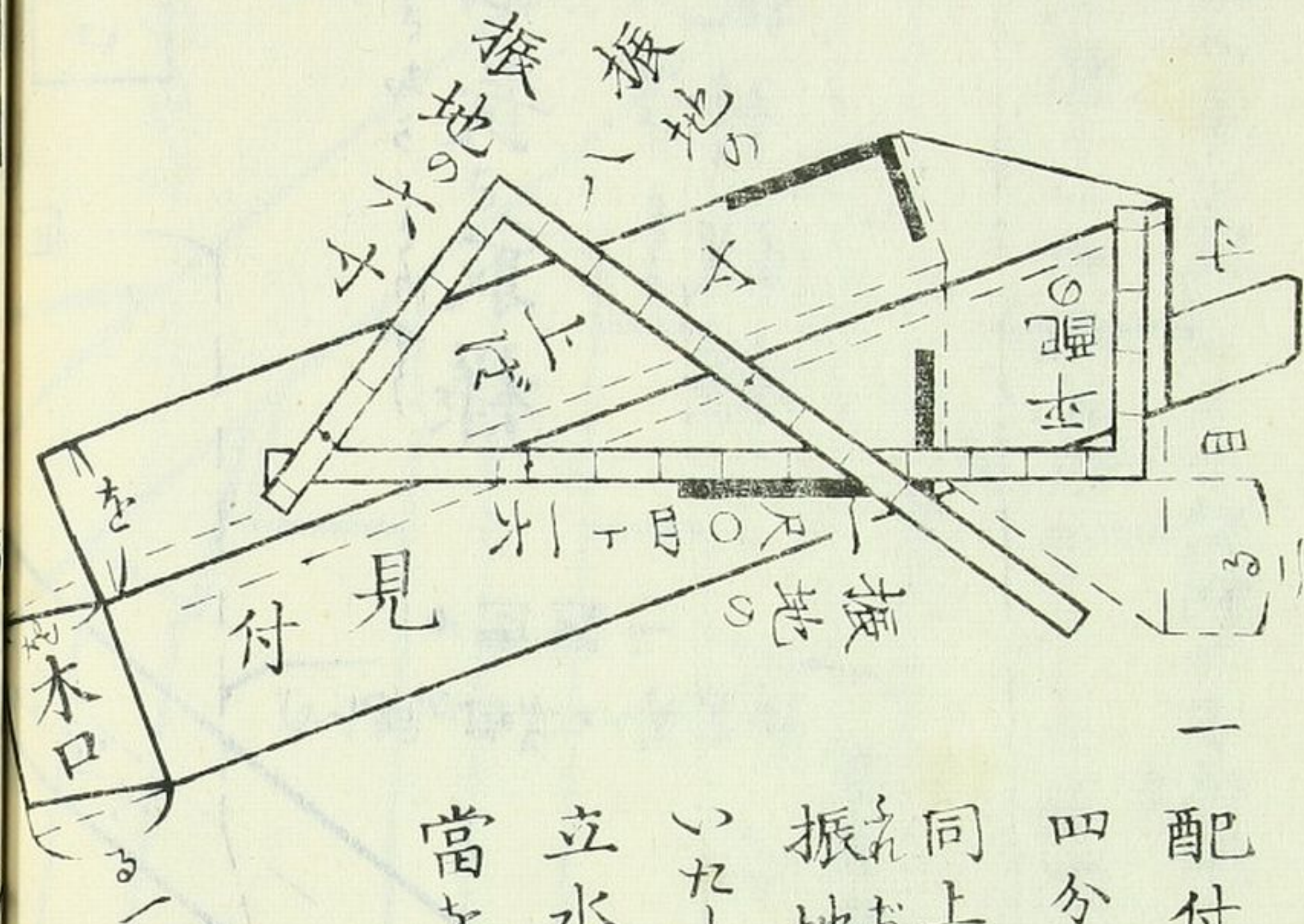
同 櫓 癖 木 口 取 様



一此癖木口を
 茅負下げは無反
 所の苗也依て一癖木口を
 茅負の反上りを寫て
 此餘菱を可増也

大工心置角初編卷之下

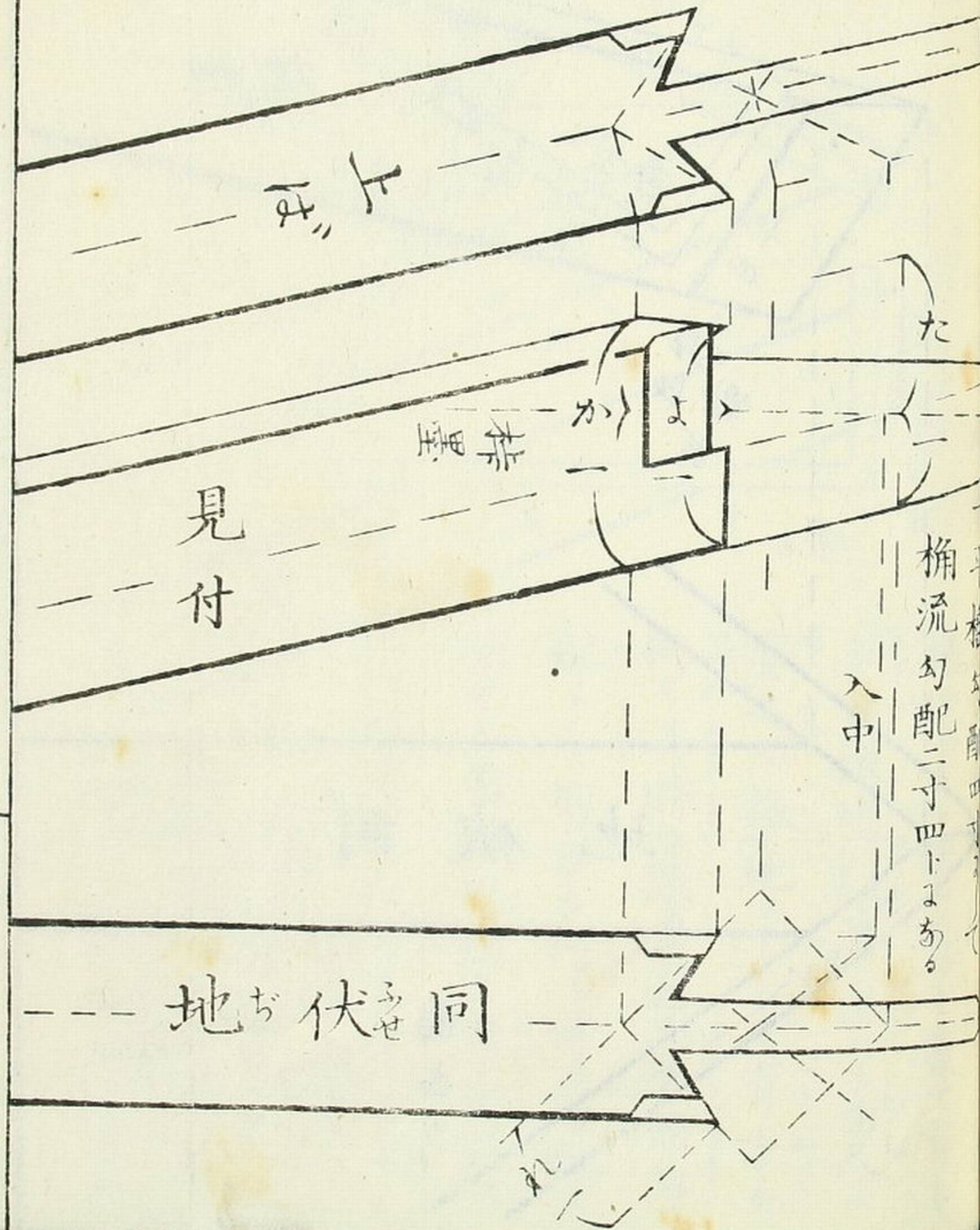
同 一 癖 櫓 配 付 又 伐 様



一配付見付の墨を振地の一尺〇
 四分一六は平櫓勾配の四寸也
 同上は墨を(る)一の寸を(る)二に寫て
 振地の八寸は同六寸の勾配は
 いたし其止りより癖の當を
 立水に引上げ上げに曲尺の手
 當を付かどより伐付墨引あり
 一櫓のせいを楯に寫しを
 たることせい立水の寸を
 すもこの立水に寫あり

大工心置角初編卷之下

同棒桶



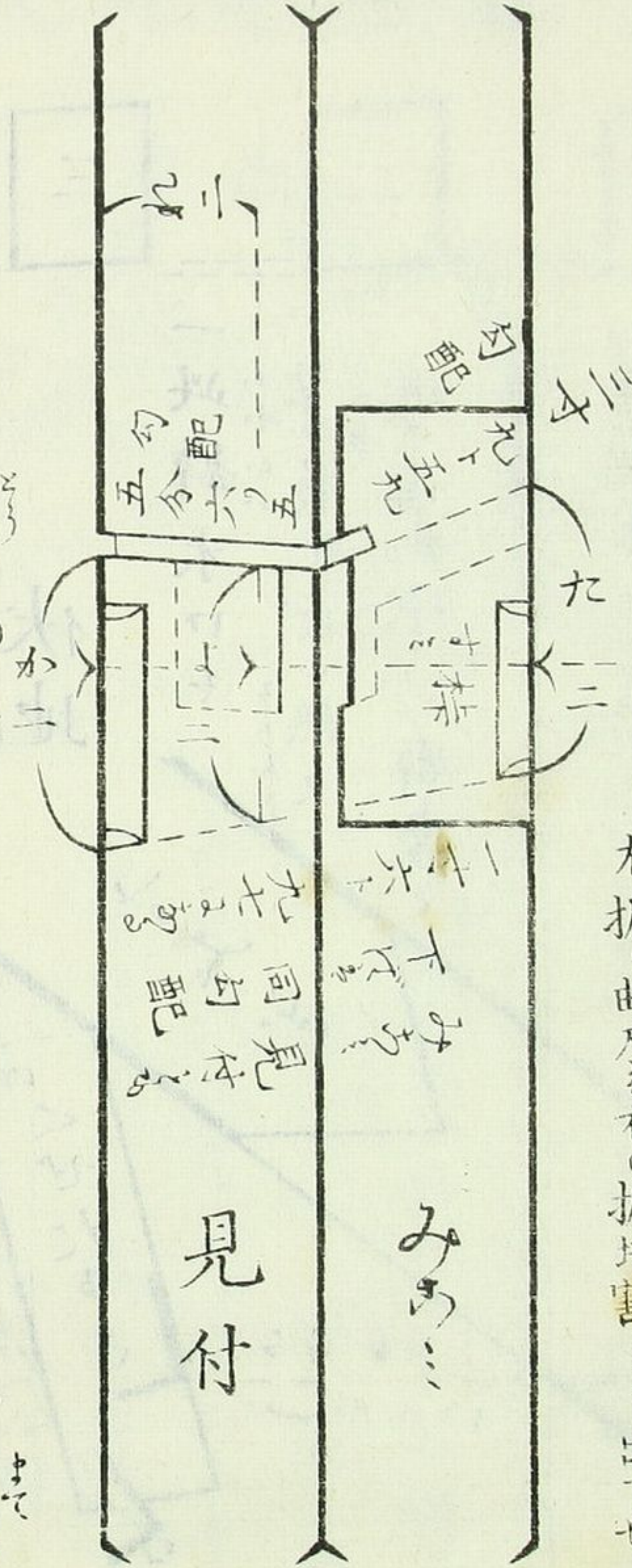
桶流勾配二寸四トある
入中

一差口穴墨寫様(か)通り(た)通りを桶の志のぎ上げより下げ迄を
 楯に寫す文也又(よ)通りハ桶口脇より同下げ迄を楯に寫あり
 可れハ持墨より上下可馬圖のハ勾配あるなり

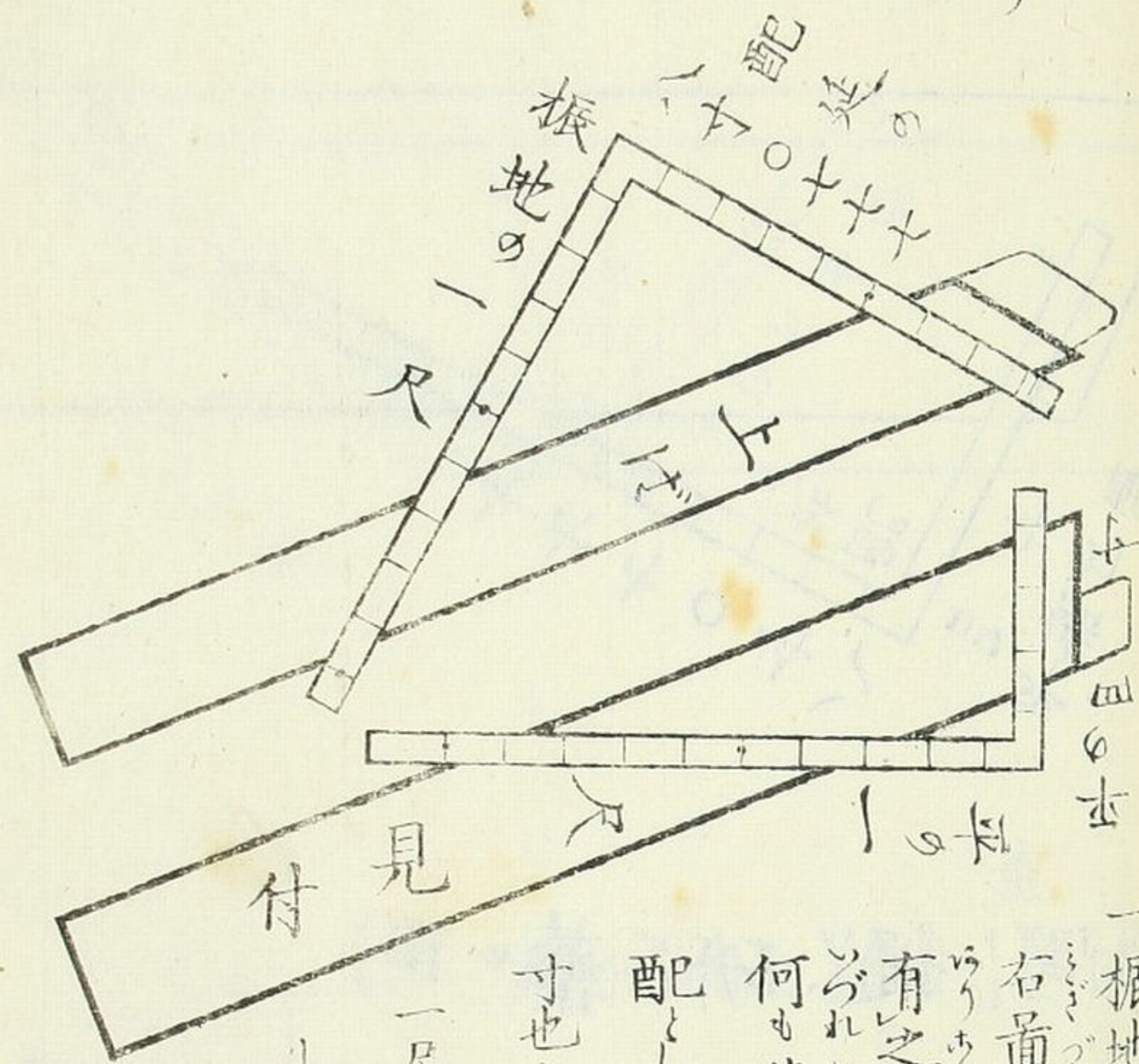
同振地を別端

真曲尺楯に棒桶差口穴墨圖

尤振の曲尺を右の振地割より出す也

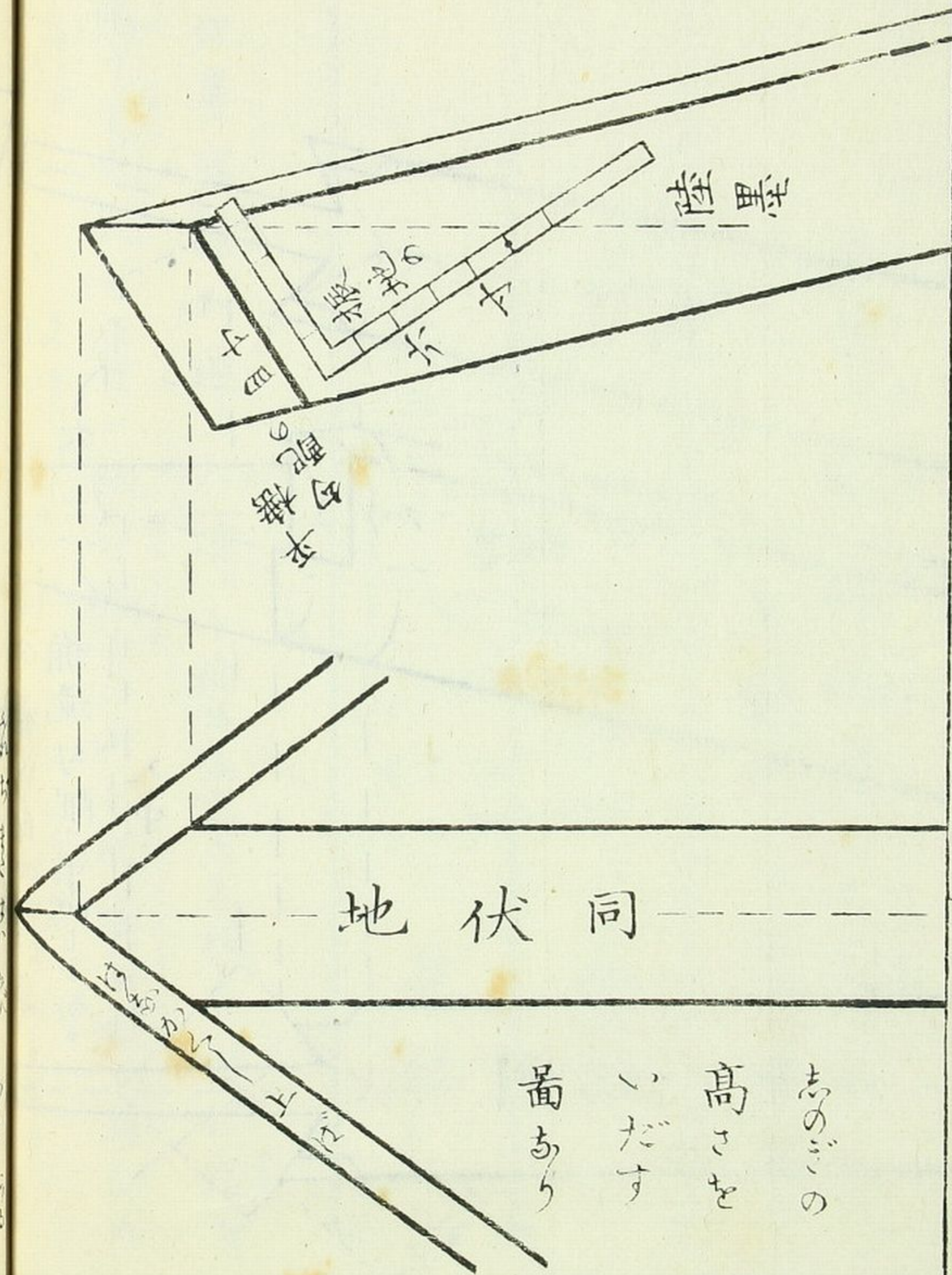


同 桁 真 曲 尺 榘 配 付



一振地の又々配の延のと書て有を
 右面振地割より出たる曲尺よ
 有之て振地のとて有方を
 何れ其時の振の寸也又平榘勾
 配とて有方を何れ時の勾配の
 寸也右面振地割を隅の地割に
 一尺とらうを付其一尺を元
 して各曲尺遣を出べ
 地振何程又榘勾配
 何寸とらう此理方あり

同 楯 面 鼻 隠 轉 墨



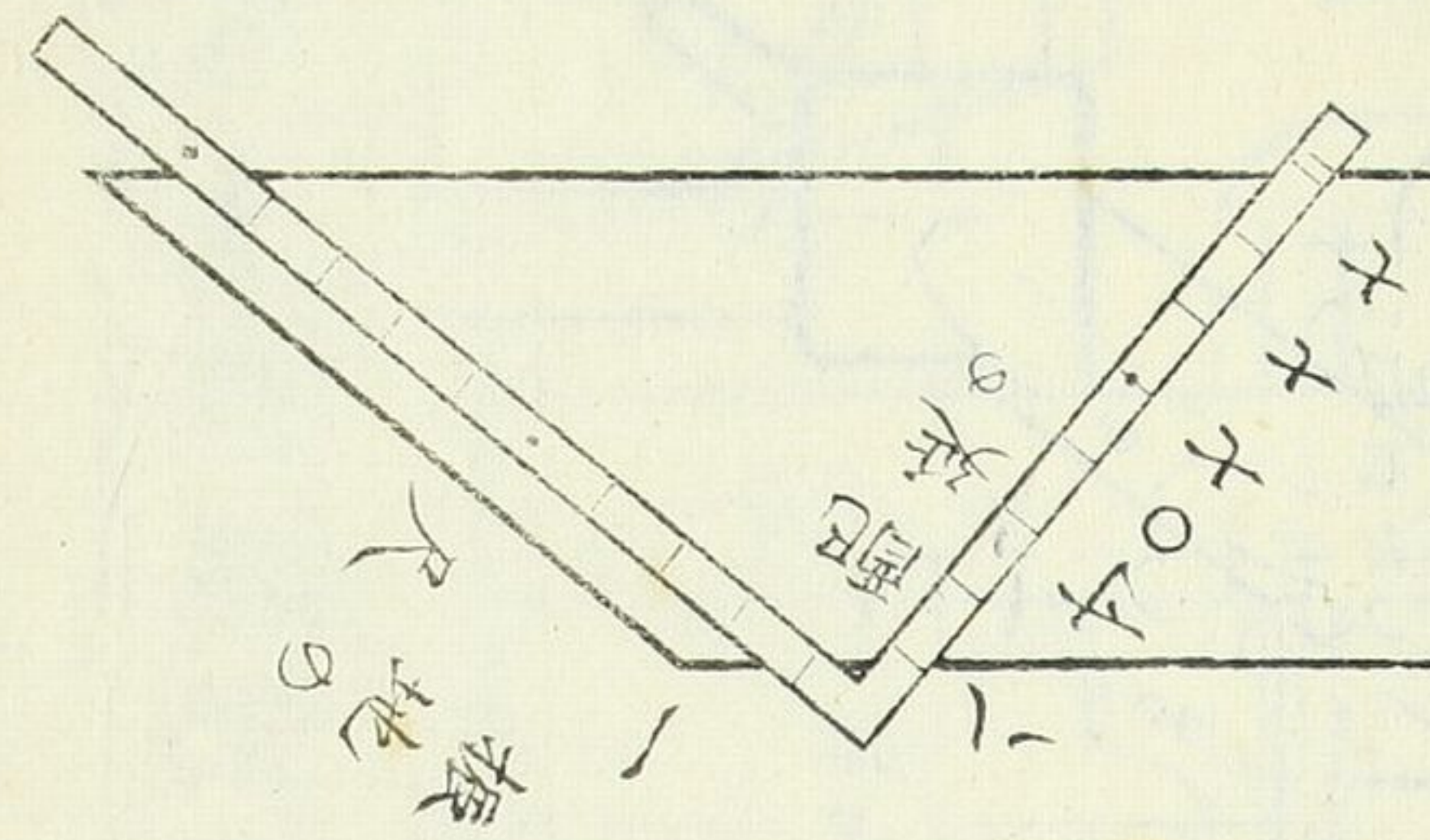
同 伏 地

志のこの
 高さを
 いだす
 面あり

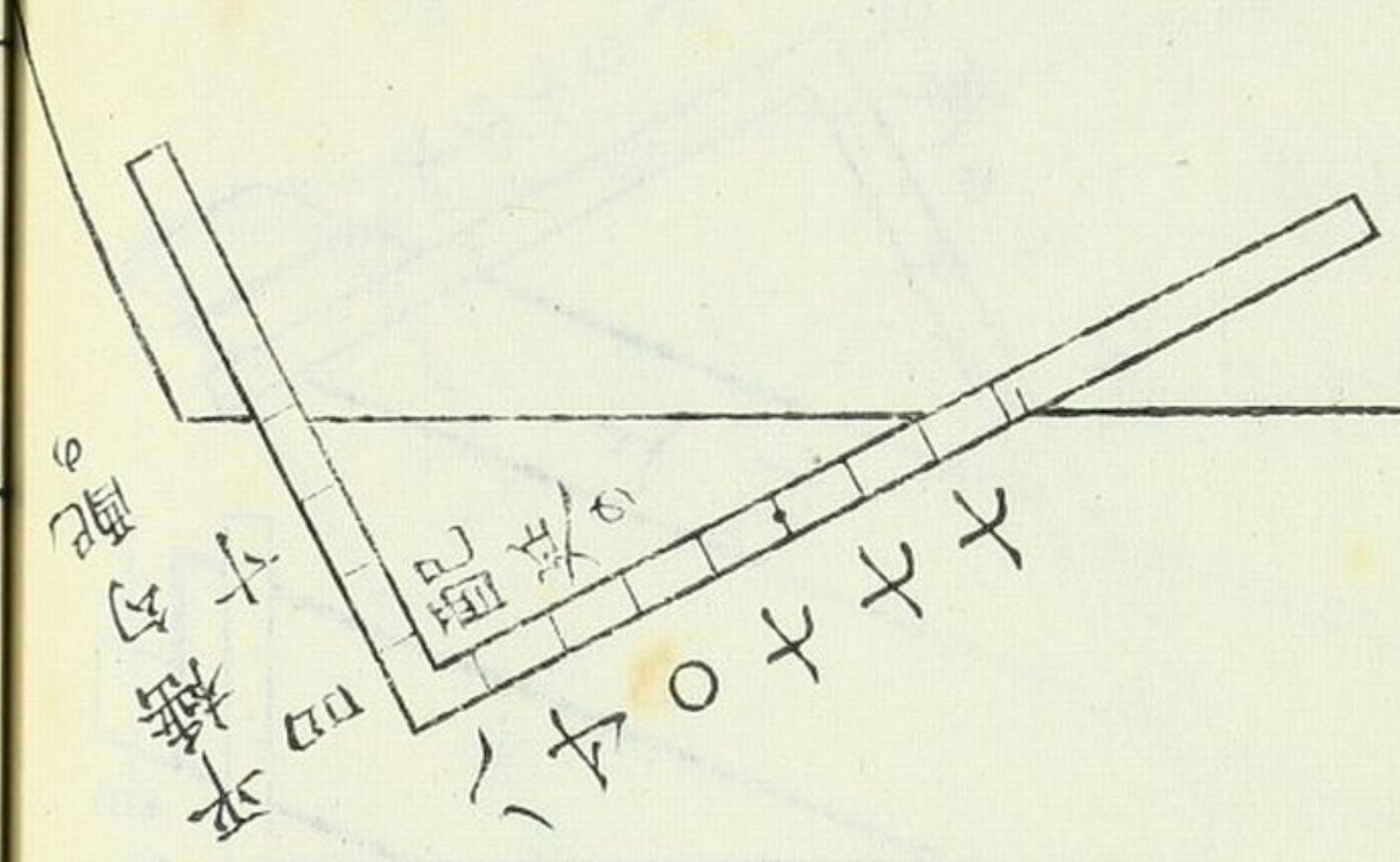
大工心算算尺編卷之六

大工心算算尺編卷之六

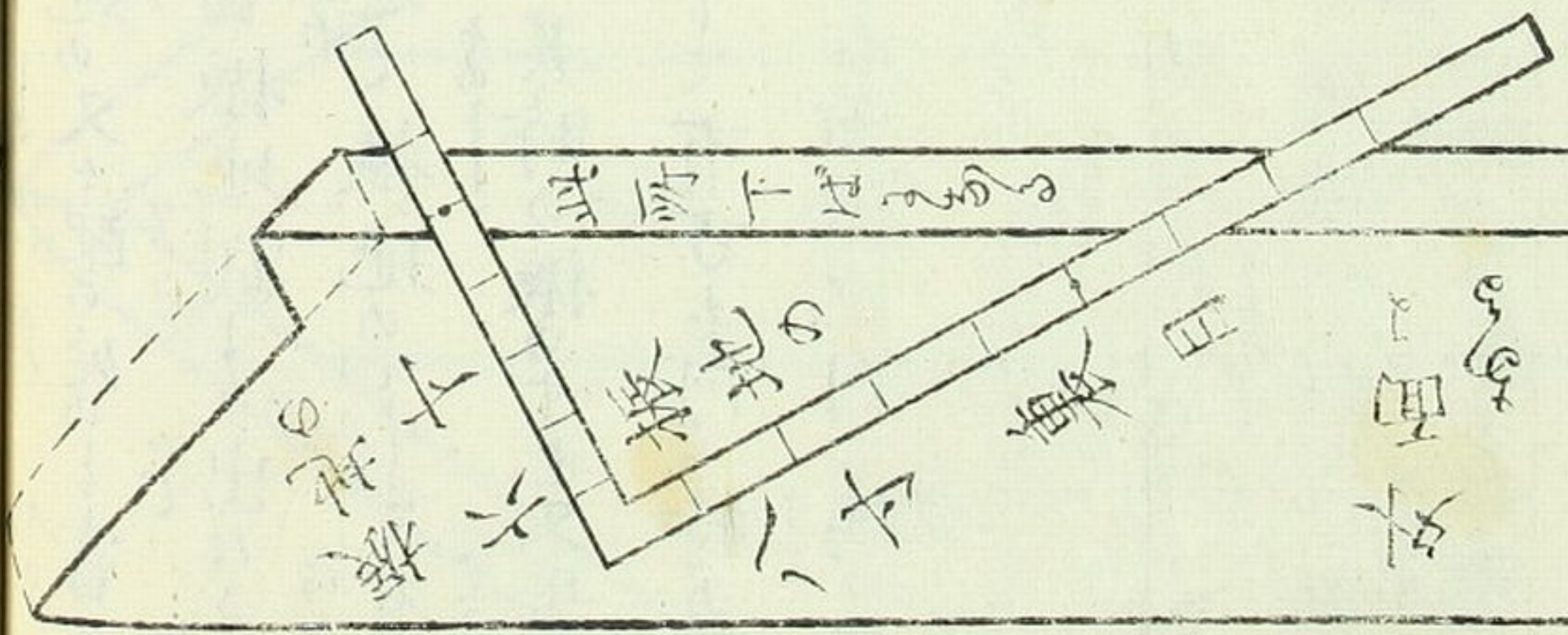
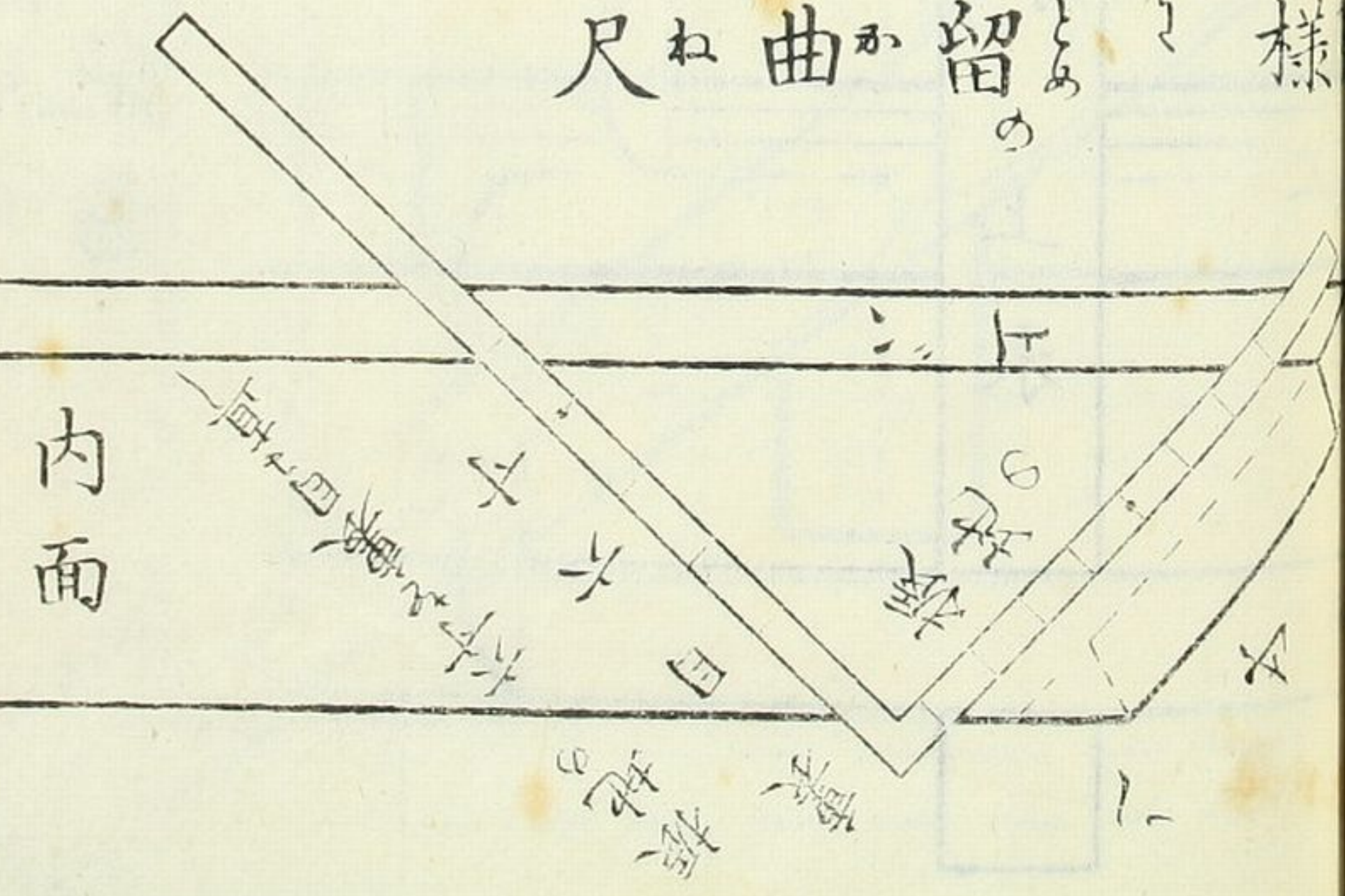
留端どら下げ舞ま小こ廣ひろ同



留向むか隱か鼻はな同



尺しやく曲まが留ど並なら様さま隅ぐみ通とほ研けん藥やく同

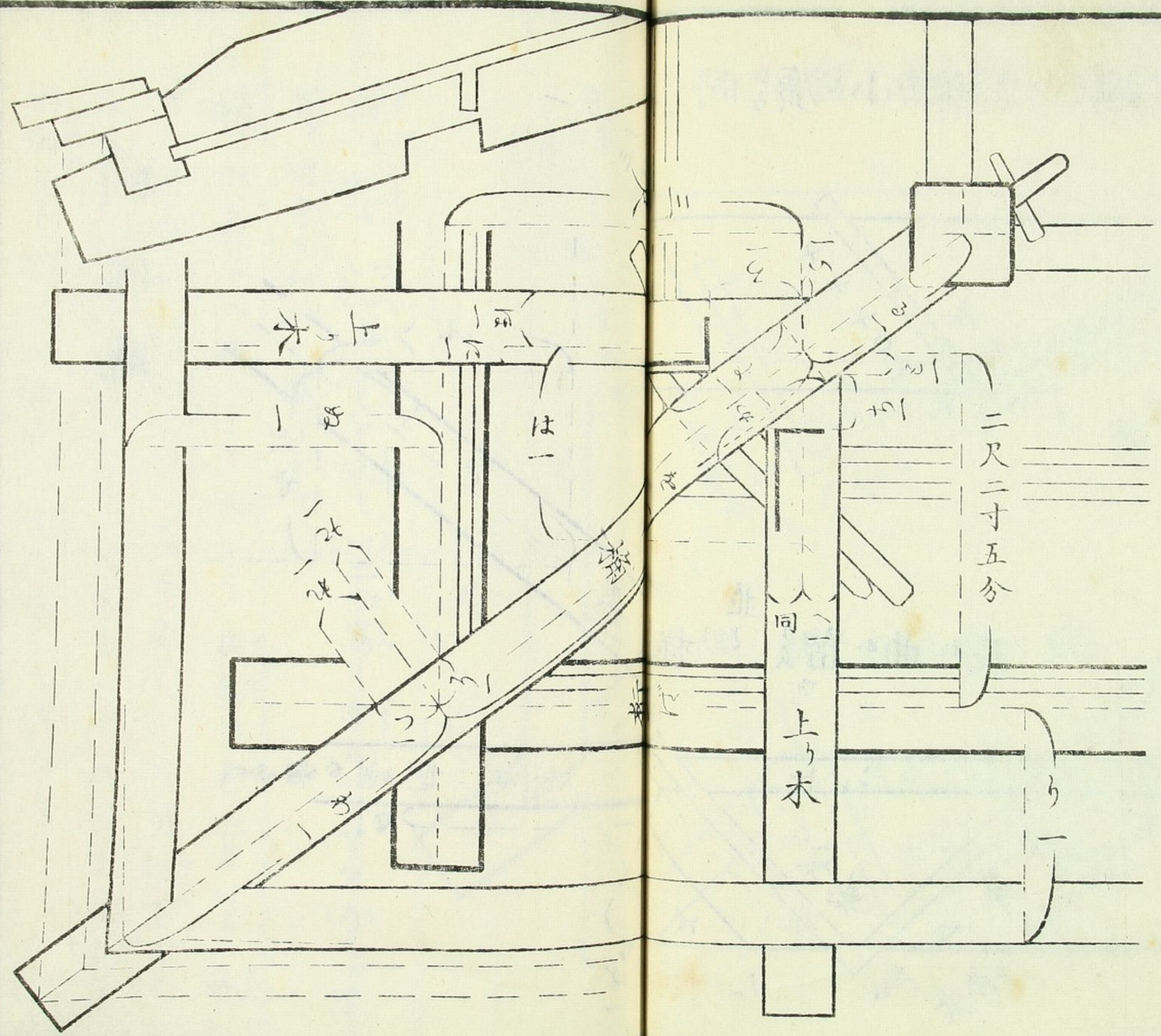


九二初八置角初級卷之十

十

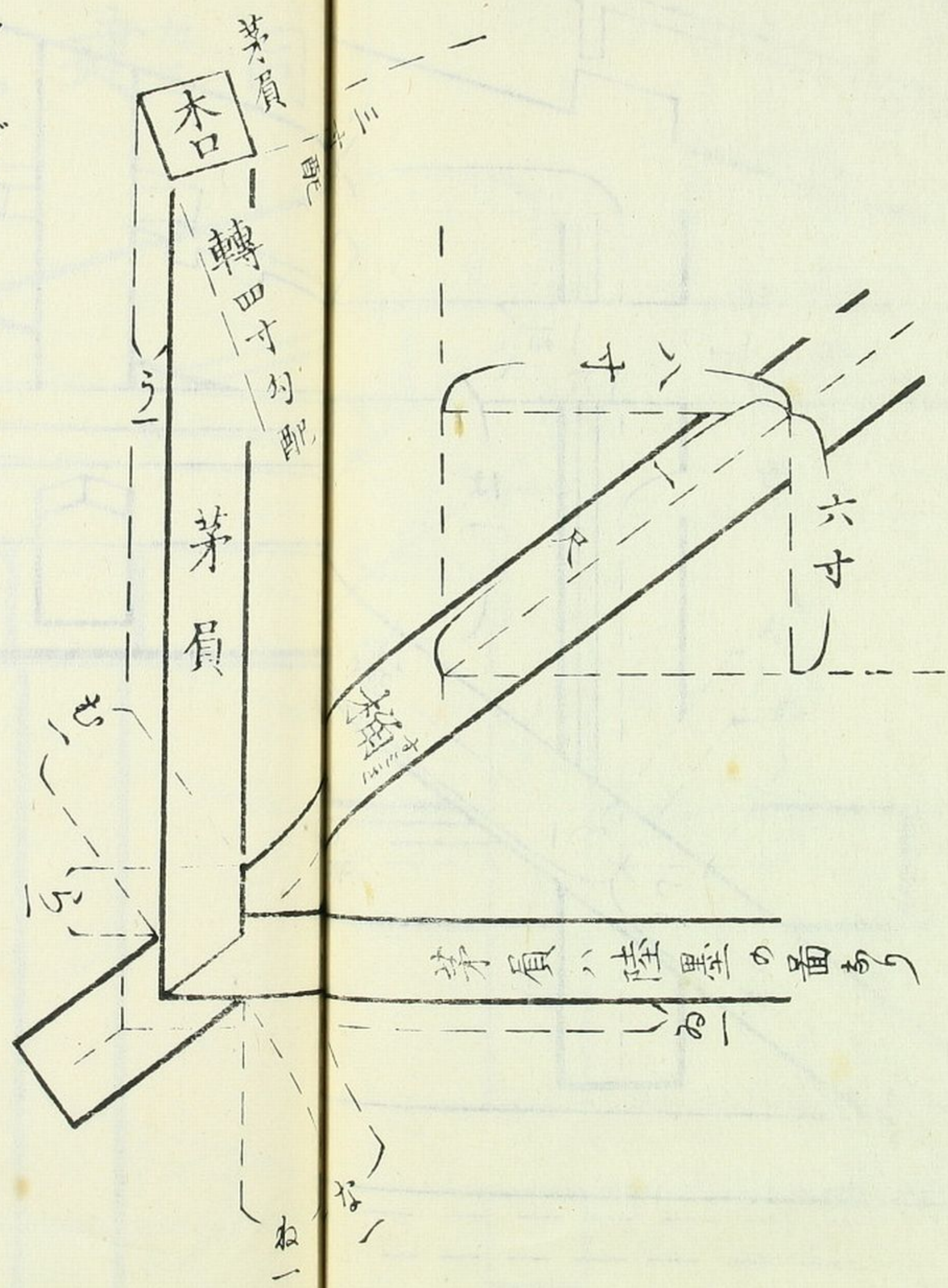
上り木作振隅鶉栓伏地番

のほ ぎつり ふねすこ ひょうり せんうせ ちづ



大工心算 巻之六

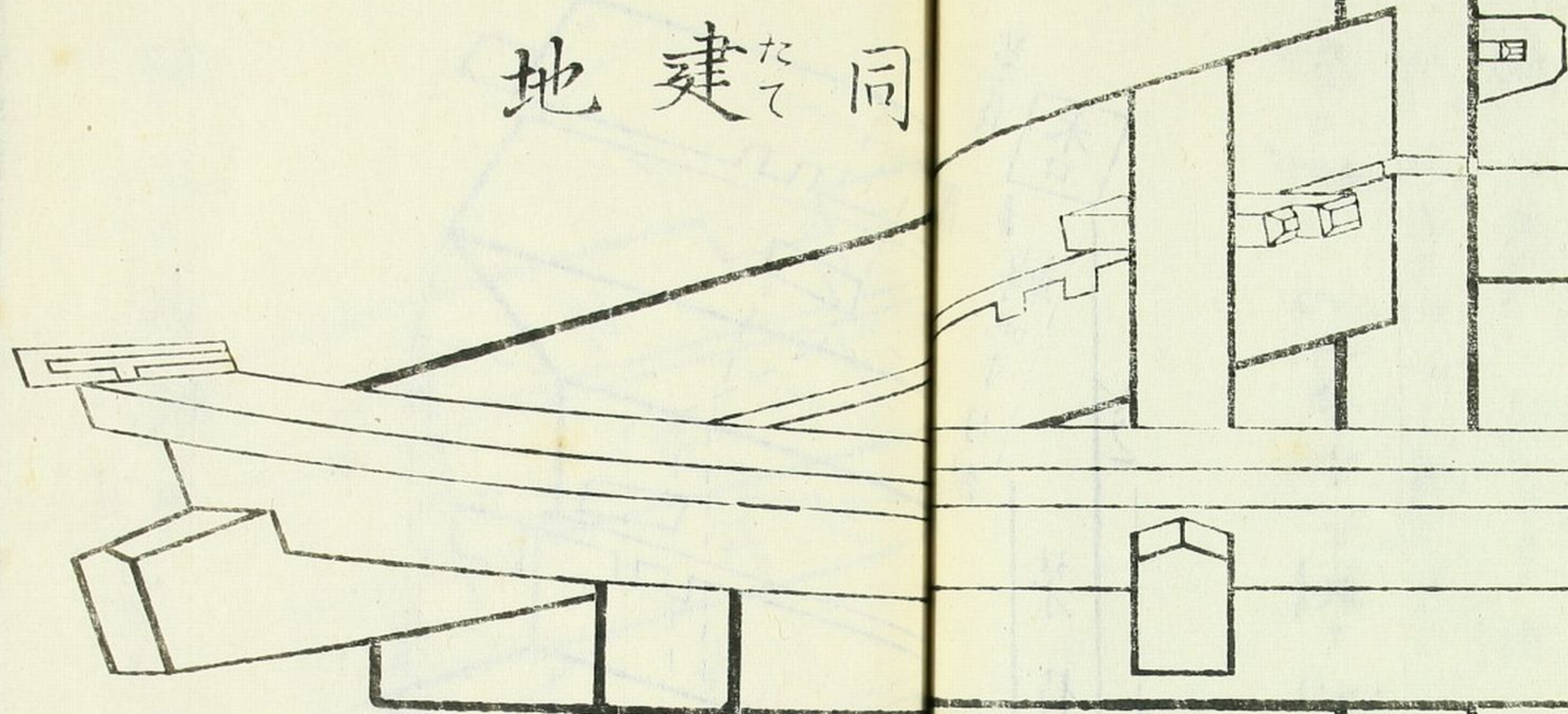
同伏地



一 番の如く (い) 一の寸を取て (い) 二に寫し亦 (ろ) 一の寸を (ろ) 二に可
 寫す 何も如此に寫すあり

一 桶の中墨は一尺として 桁より 曲尺の手八寸あり 此
 寸を換面 茅負轉墨の長手曲尺より 可用 横手曲尺
 と 茅負向面轉勾配の四寸を用るあり 亦六寸有是も
 同断あり 則左の桶反り形の番より遣あり

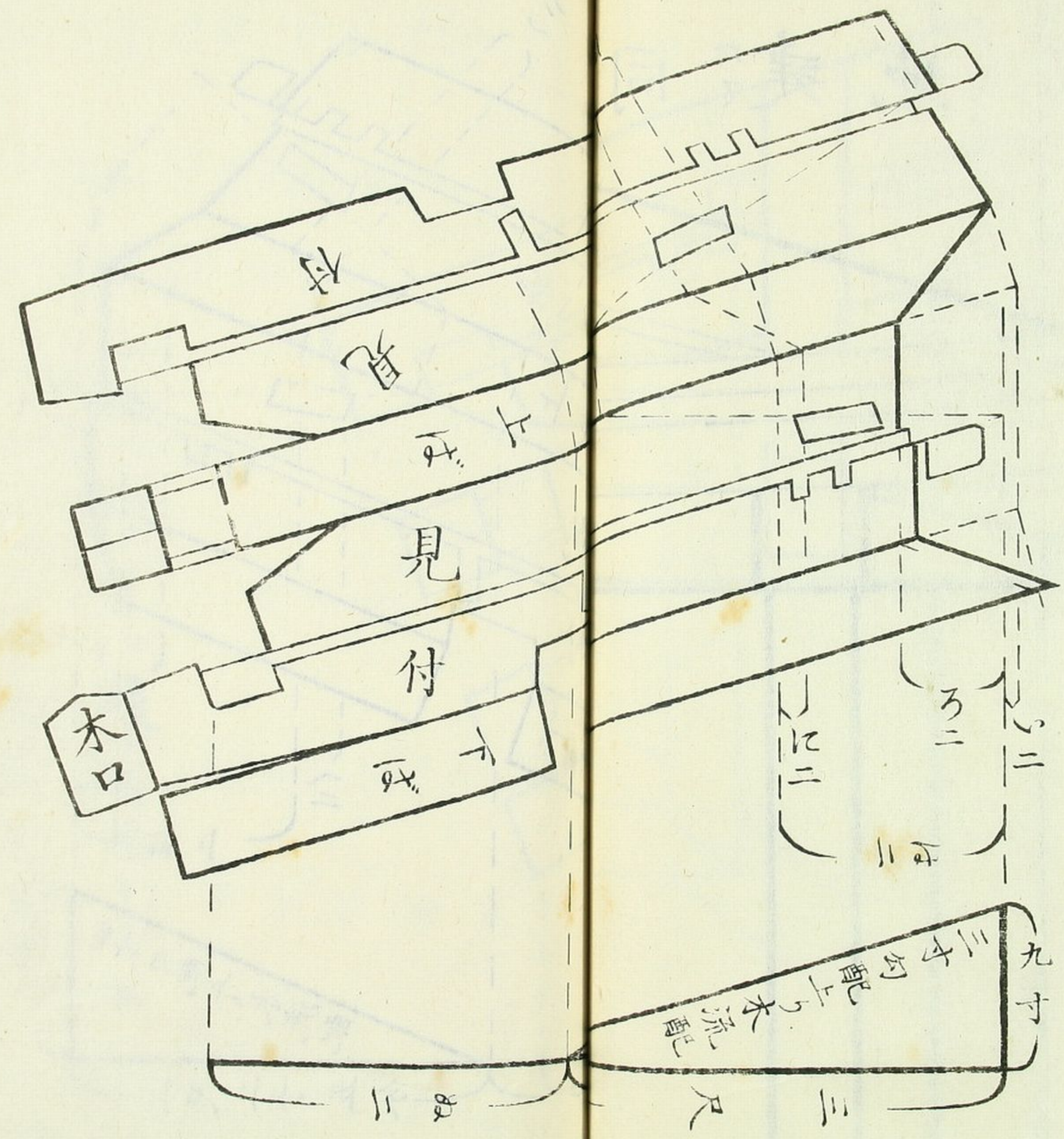
同 建^{たて} 地



丹波心置解初級卷之下

三

同上り木配付ほつり並な鶉栓うす穴あ



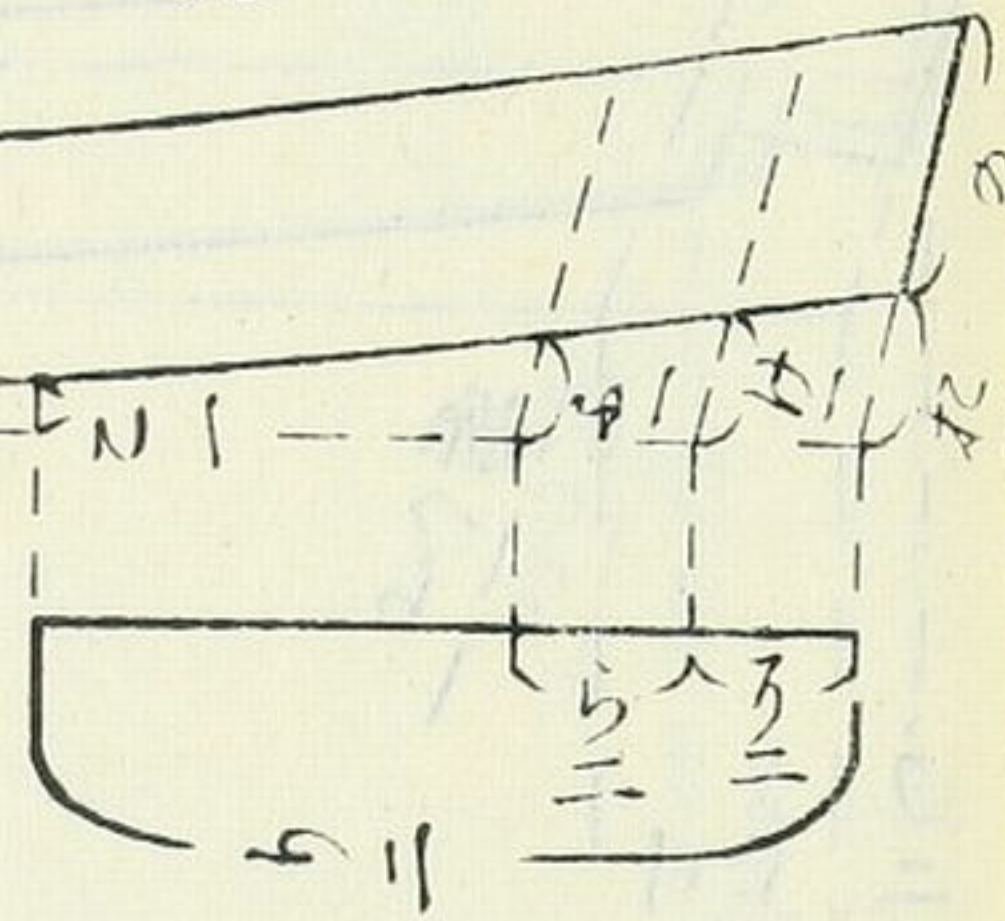
大工初心置角初編卷之下

十三

形反同

て2配勾寸四轉面向

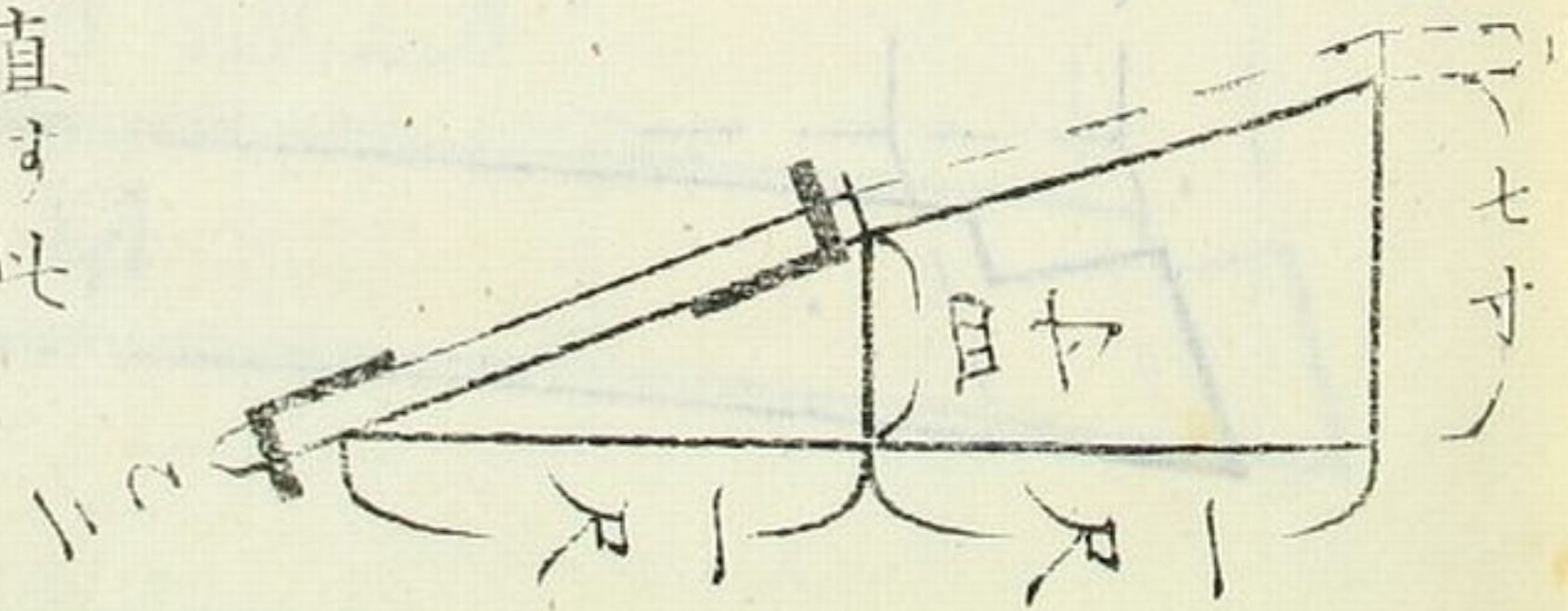
方配勾寸三流



一茅負反と立水と直す此
 二方の圖よて(ま)一とに一の反
 を立水と直して楯の立水に寫也

様直水立反同

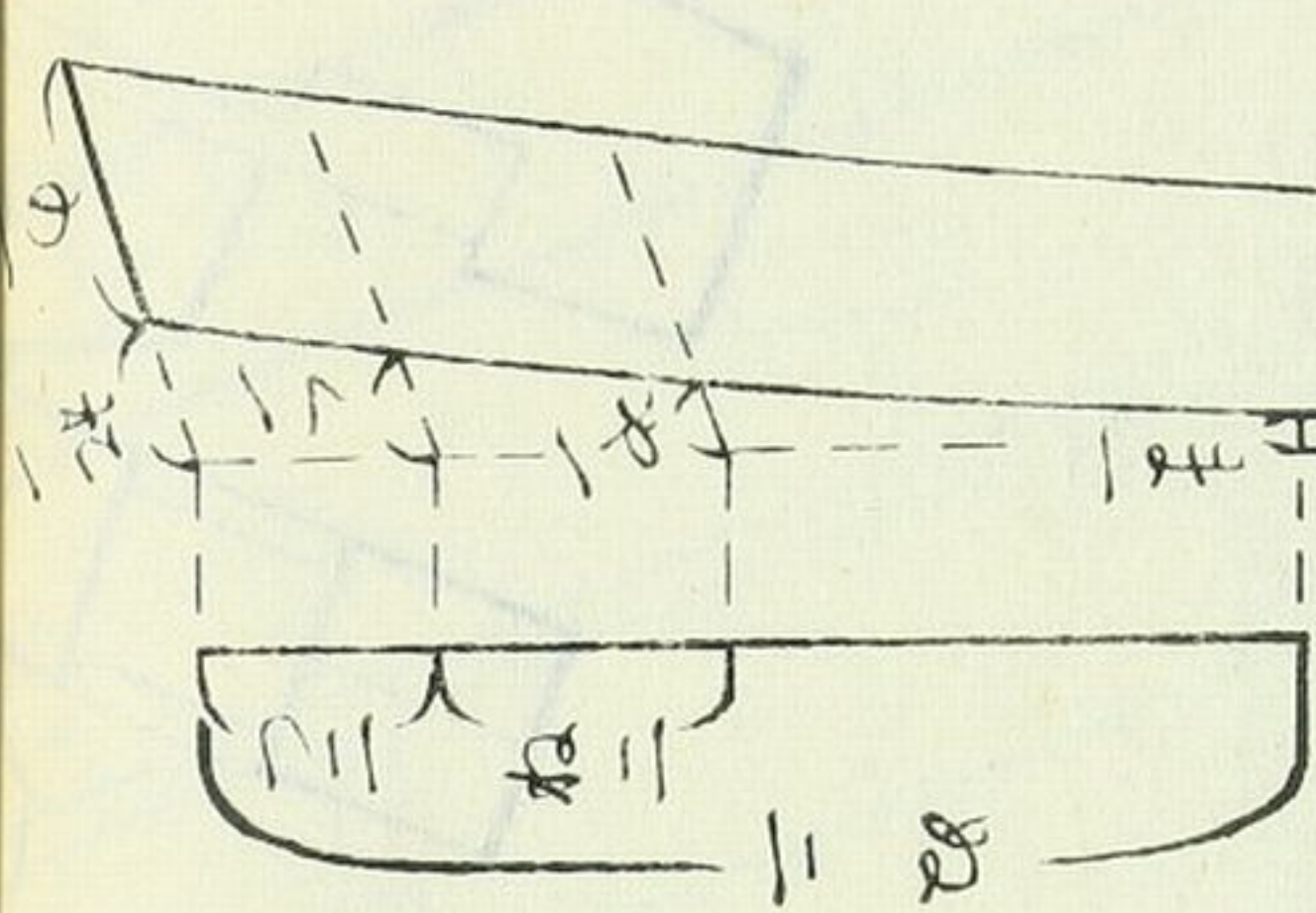
方配勾寸三流



形^か反^{そり}負^い茅^か同

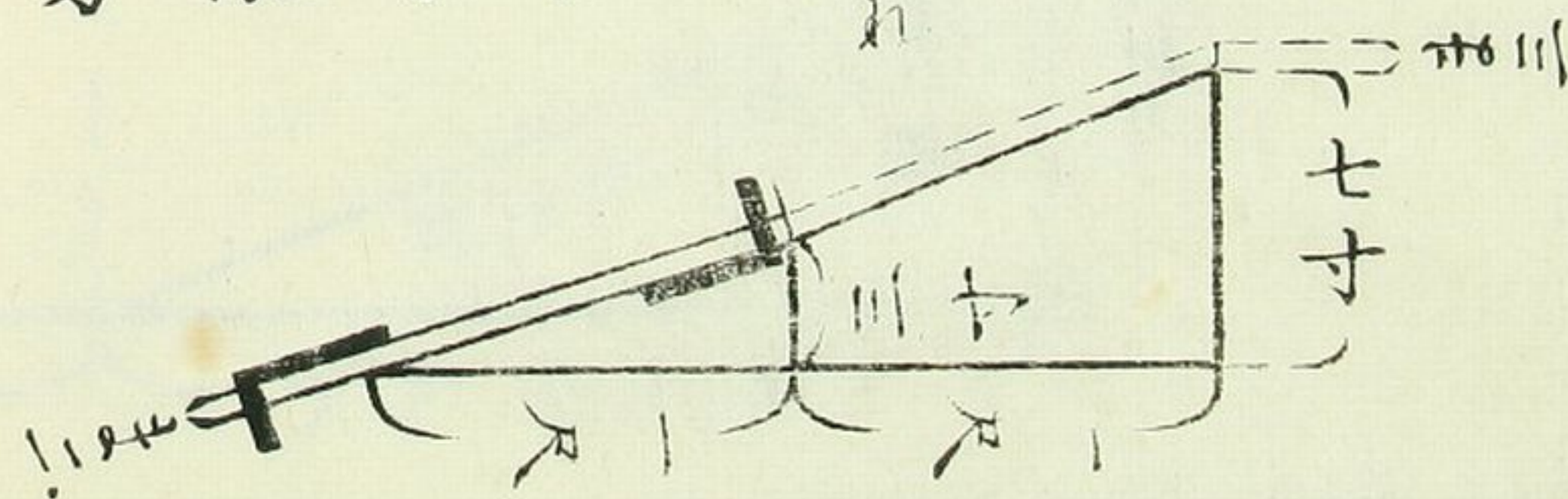
て2配勾寸三轉面向

方配勾寸四流



様^り直^あ水^か立^た反^と負^い茅^か同

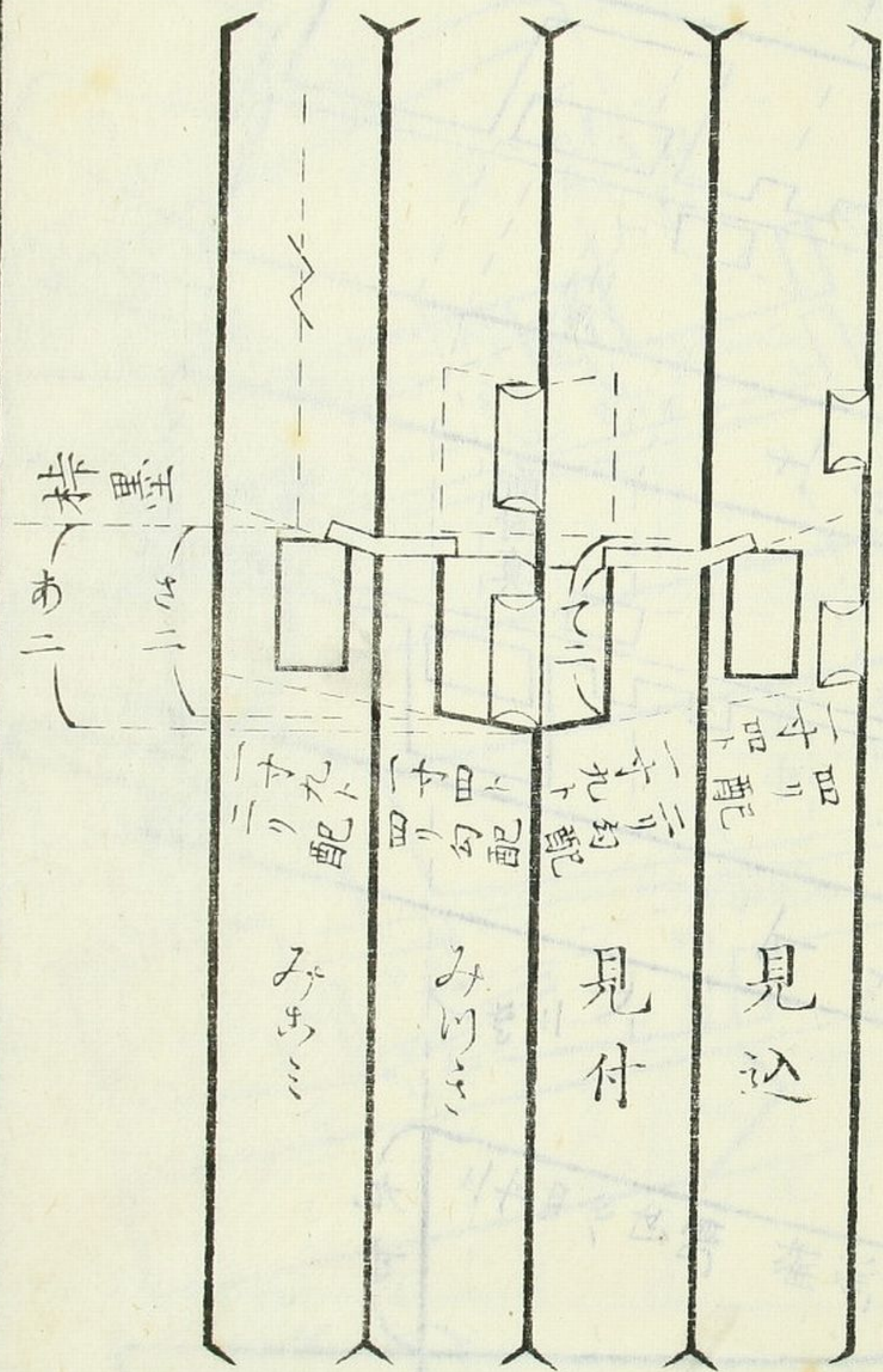
方配勾寸四流



大工心算角不終卷之六

大工心算角不終卷之六

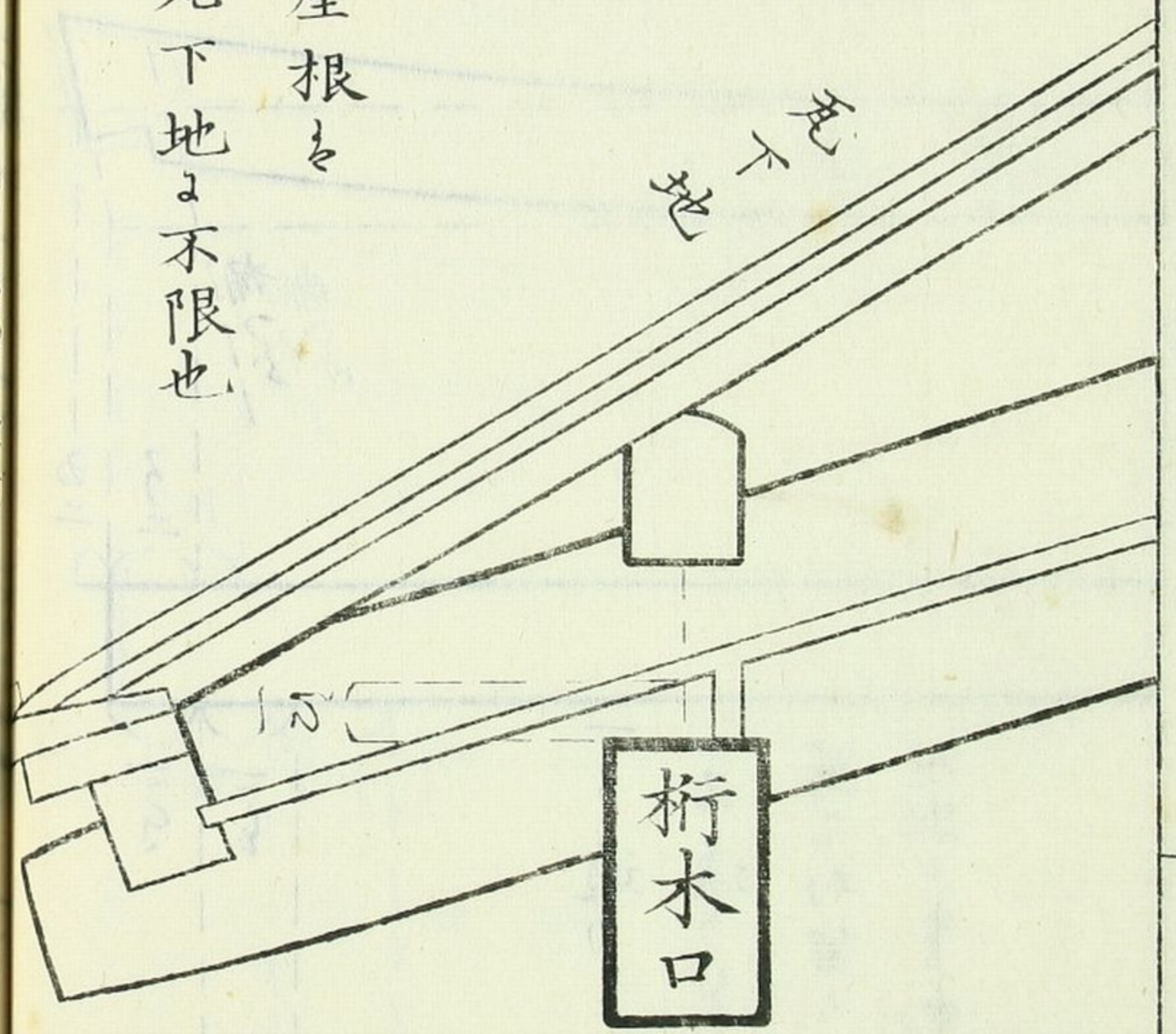
大工初心置角不細卷之



同本柱に桶差口下端勾配

同 上り木組りあせ合

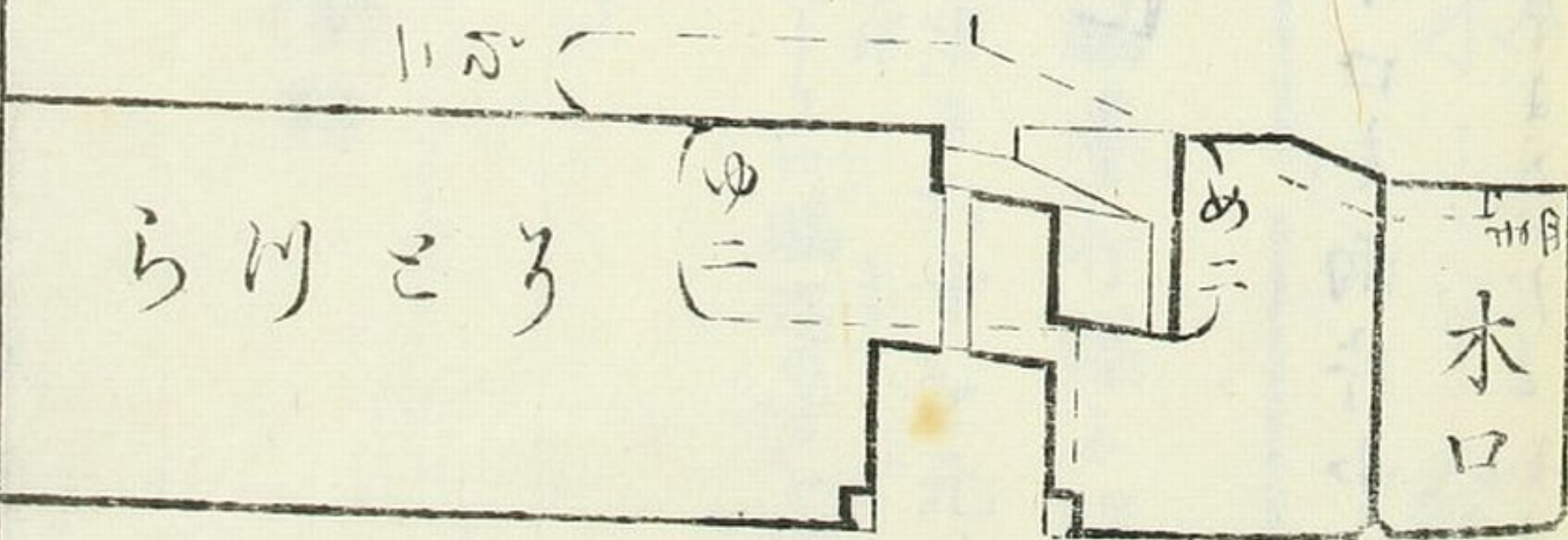
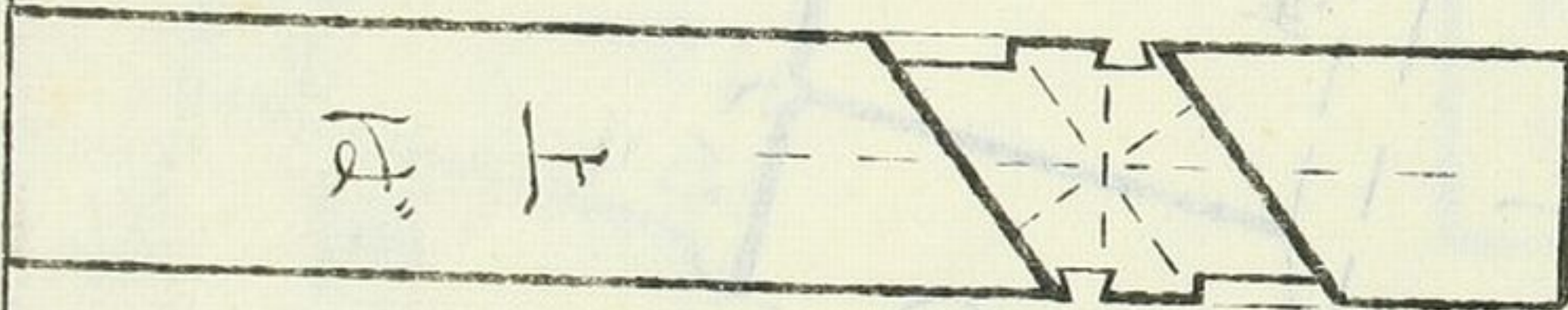
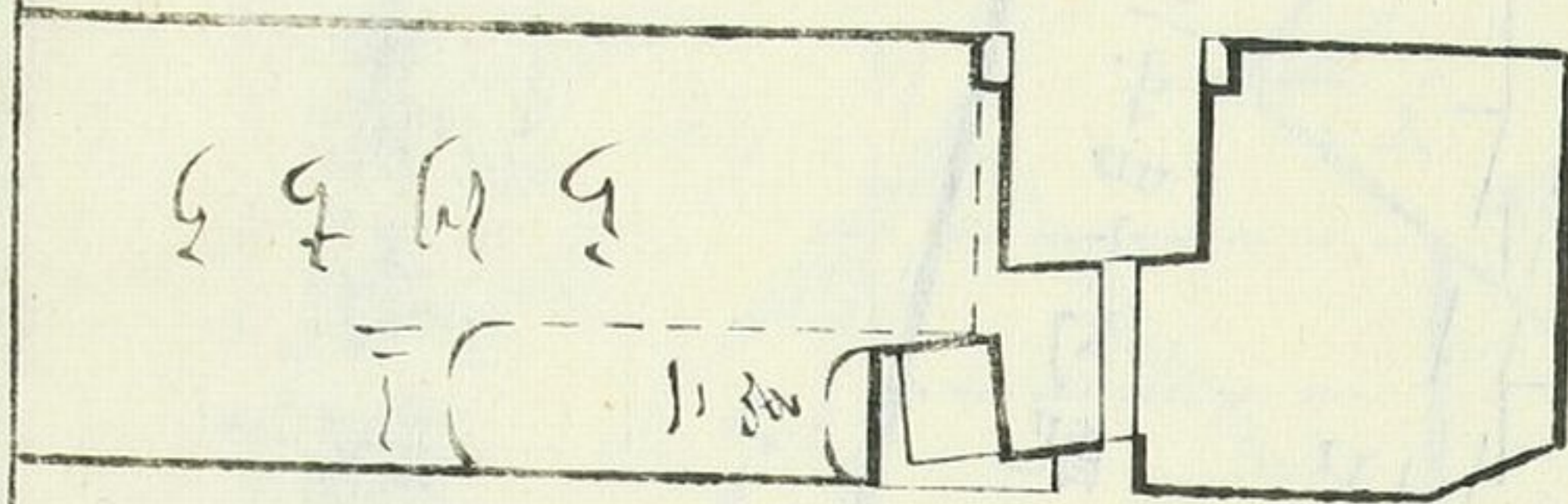
一屋根と
瓦下地は不限也



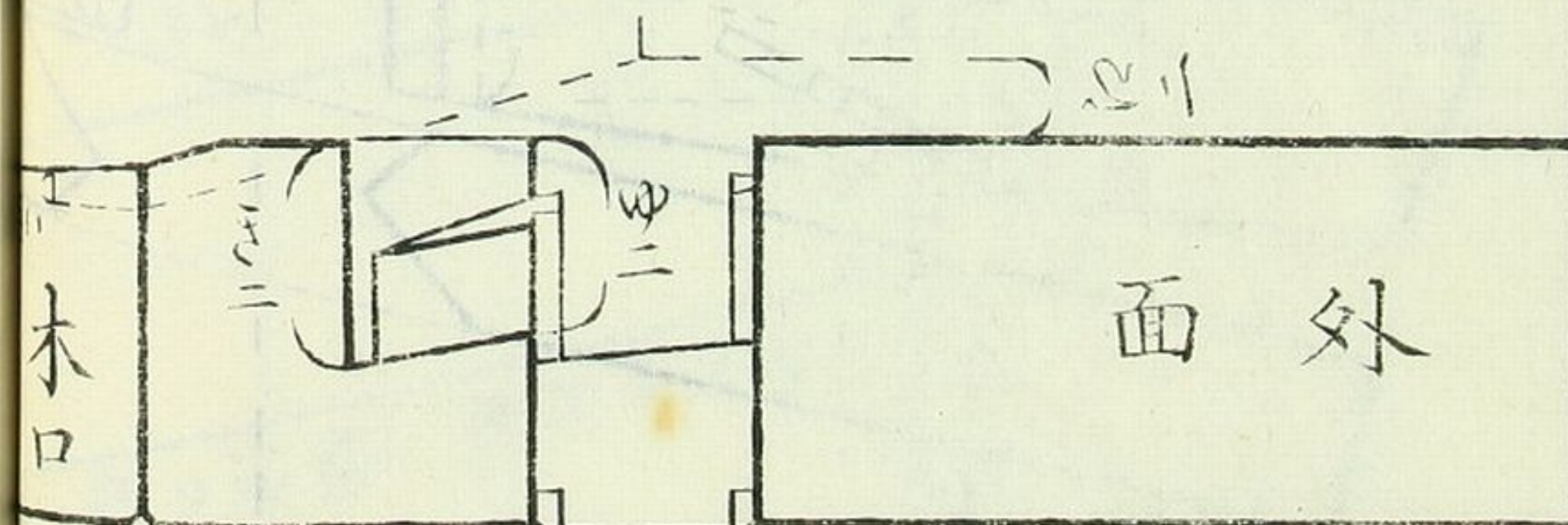
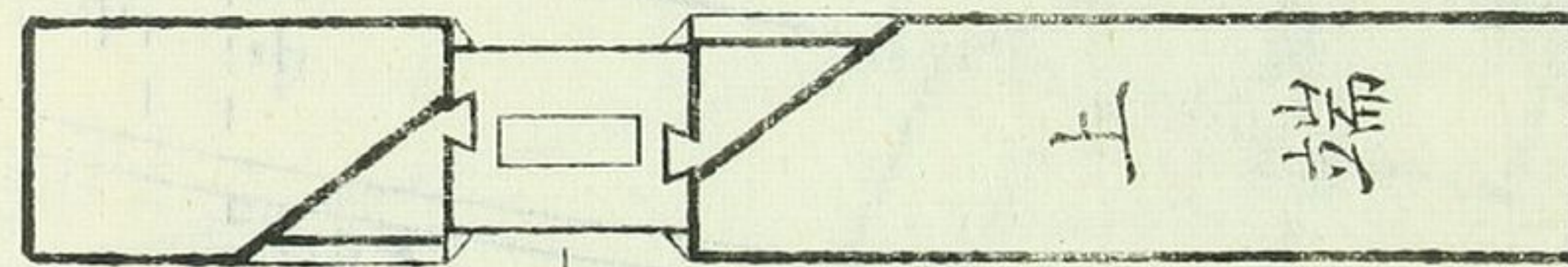
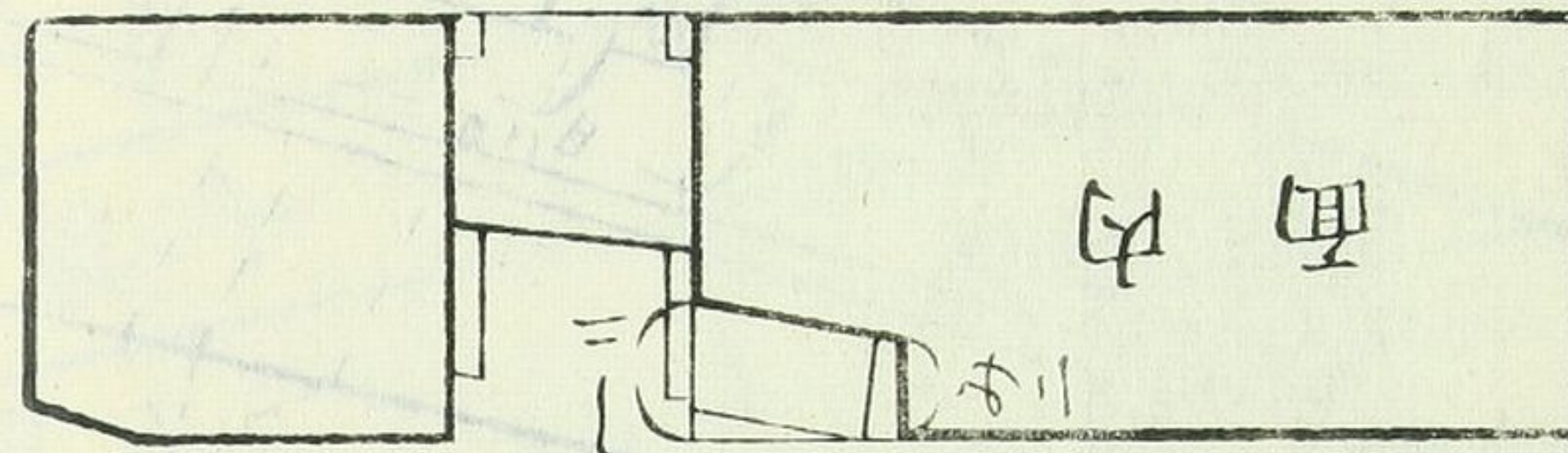
大工初心置角不細卷之

懸^{かり}落^ち櫓^は筒[？]井^ゐ同

方配勾寸三流_れ



方配勾寸四流_れ



大工心算解

大工心算解

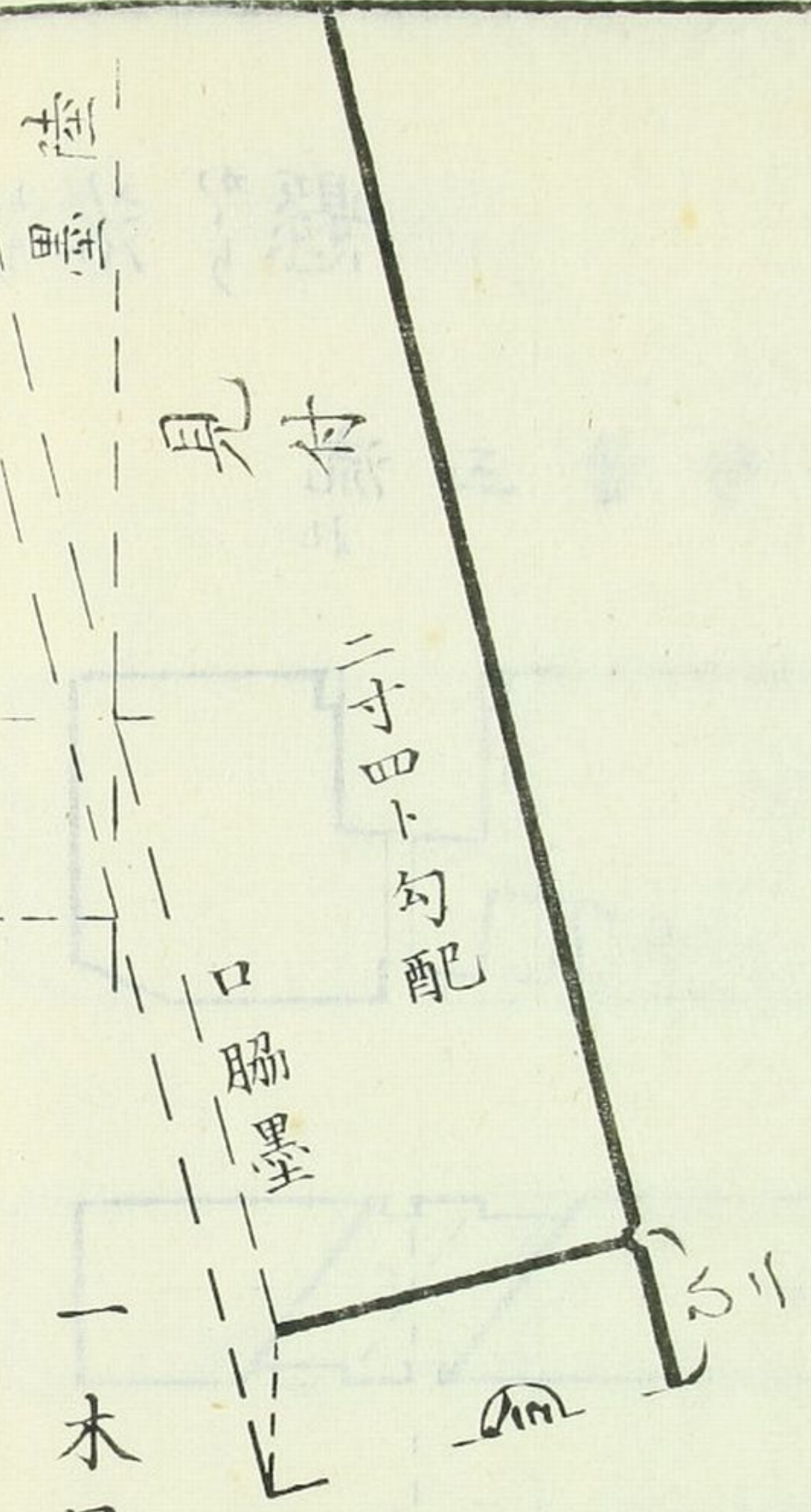
初編卷之丁

十九

同桶口脇墨打様

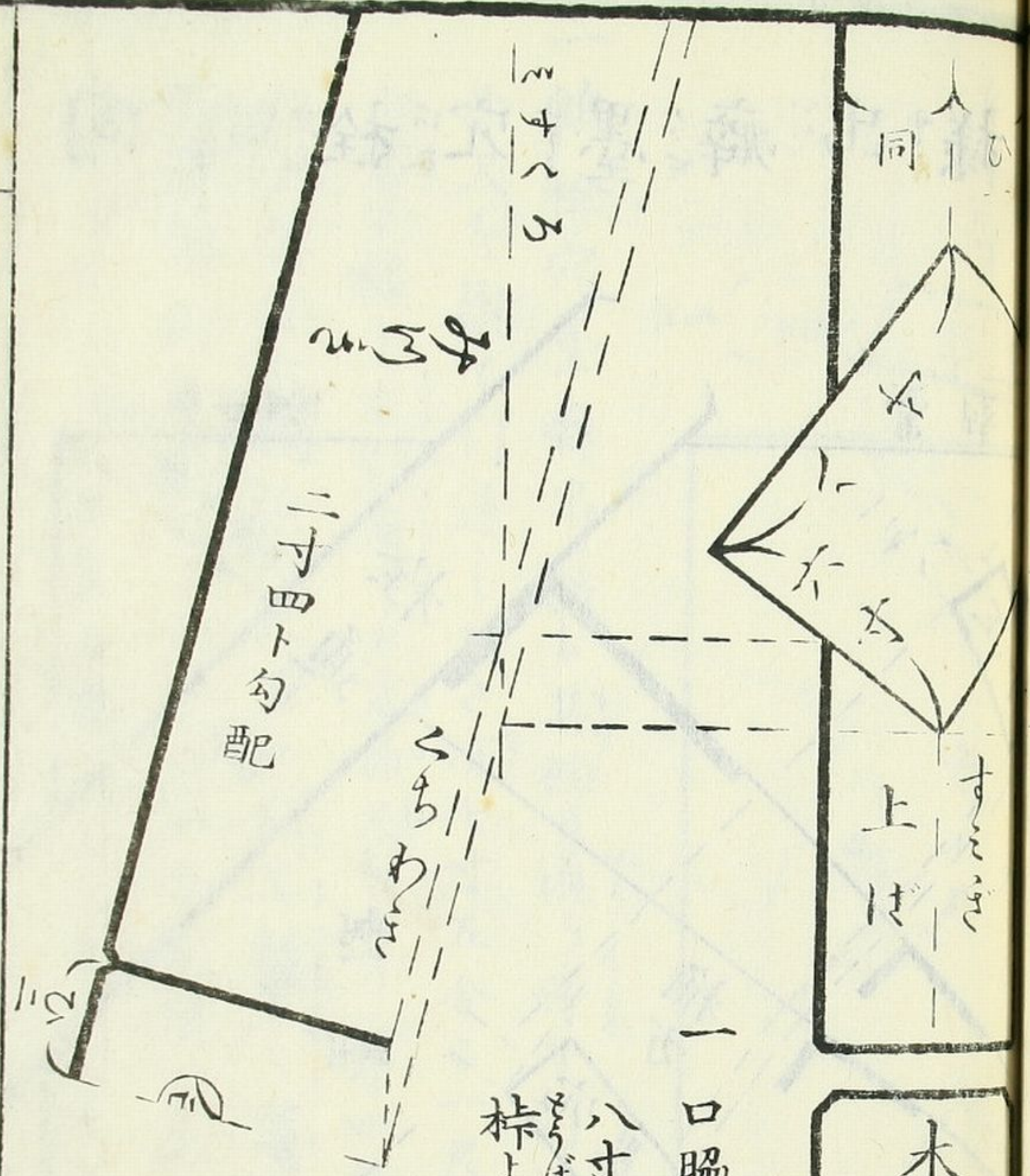
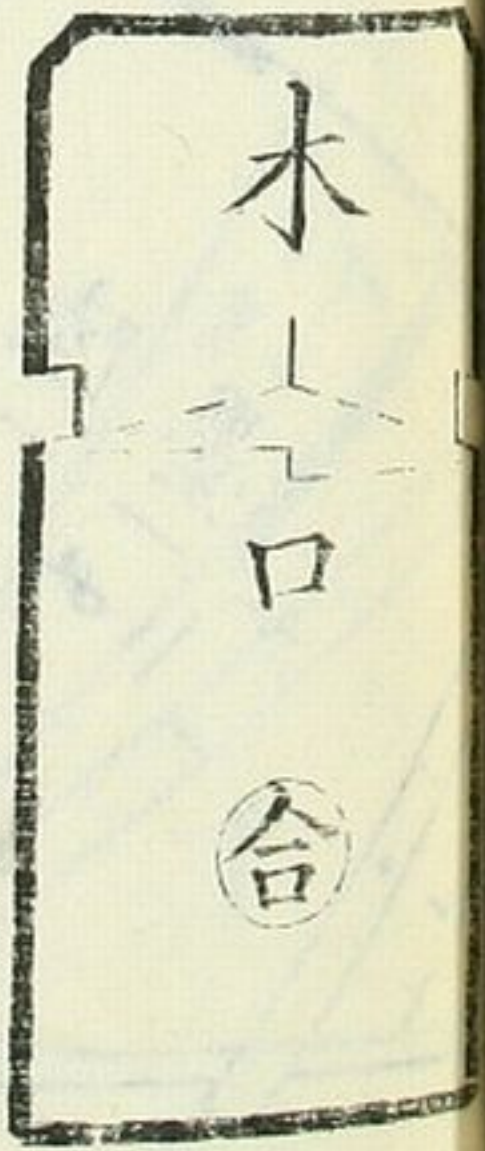
くちわきすこちや

並よ 同木口



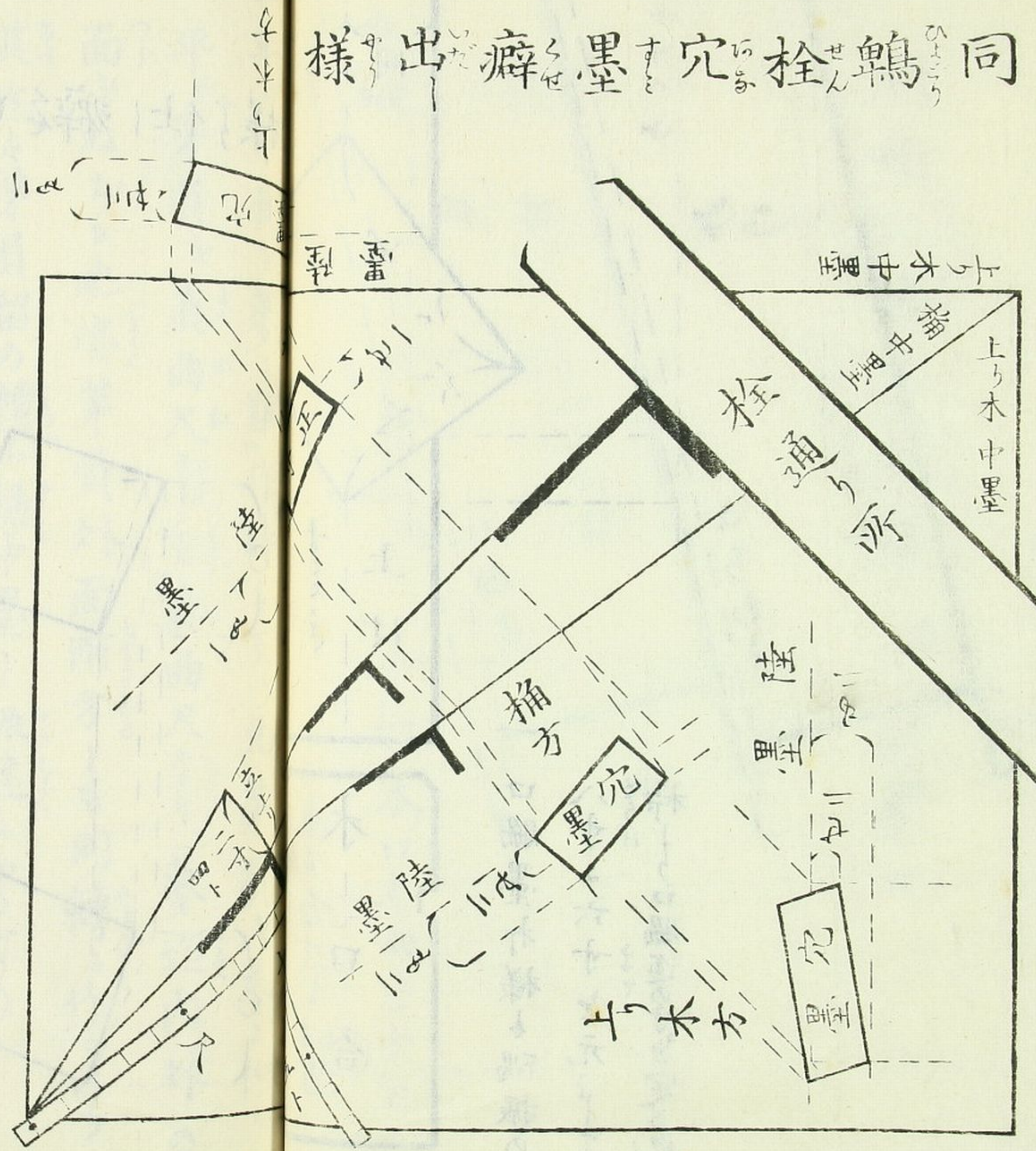
一木口を兩片中を

一本よ合たる如也



一口脇墨打様と隅振の
八寸と六寸を元として
棒より口脇迄の寸を定む也

同 鷓 栓 穴 墨 癖 出 様



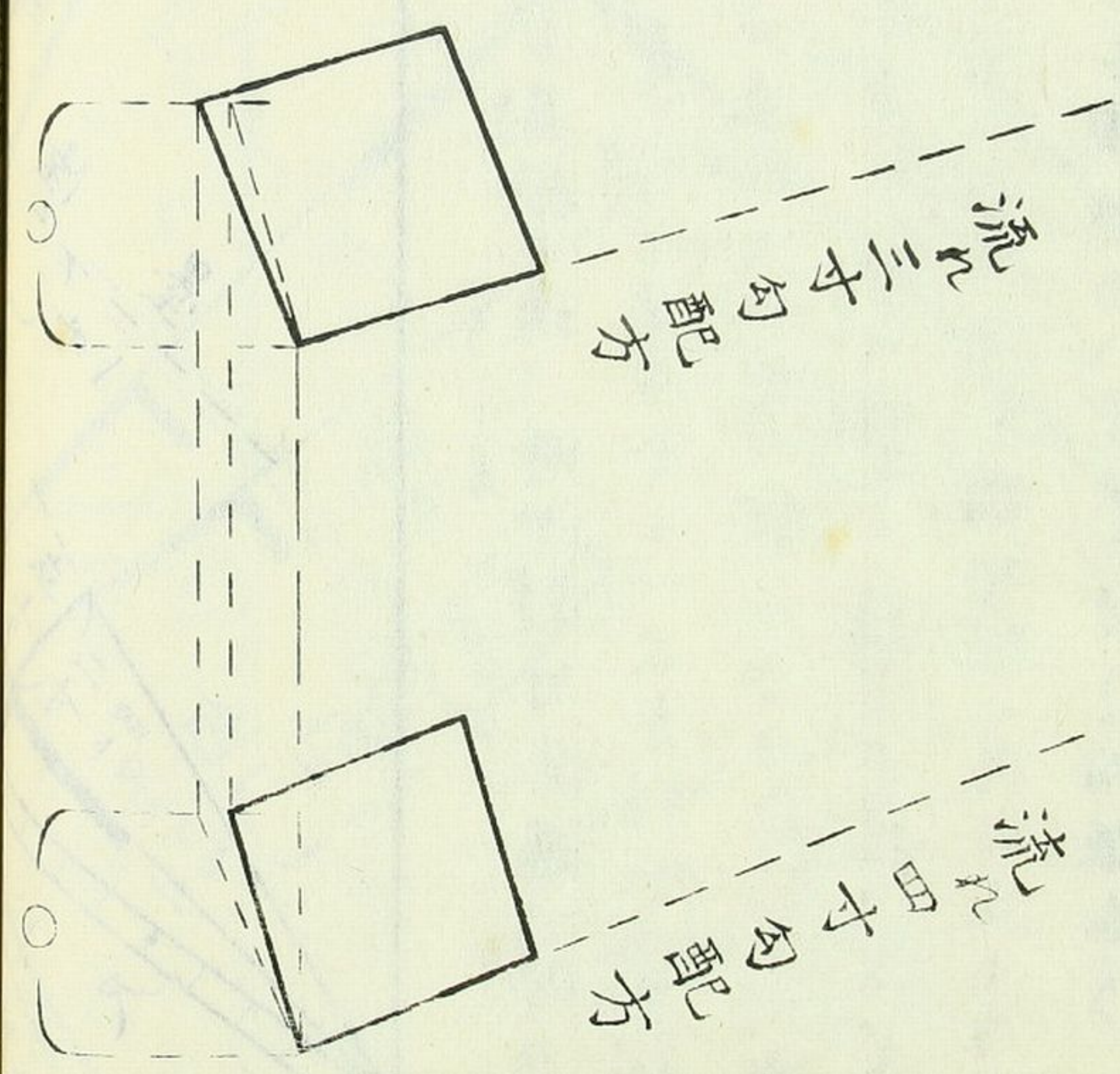
一鷓栓穴墨癖出様を其栓の通り所を引付其通り所に真
 曲尺を掛て引通し亦七寸五分より一尺を引おき其かど
 に當る様より右引通しに真曲尺をかけ二寸四分立上りて勾配を
 引上其配に鷓栓の正寸を引其轉より楠方と上り木方の
 穴墨轉癖を出あり尤二寸四分を楠勾配一尺の立上り也
 亦七寸五分より一尺有る隅振の八寸より六寸と同振あり

一ノカノ首耳ノ編...

一ノカノ首耳ノ編...

大工心置角不ぬ老之下

同茅負木口癖仕様



一平の茅負を菱々難作時を及び元茅負を菱々作り
 平の茅負を真曲尺より真曲尺より菱迄内外の
 面をぬぐる也亦茅負外面両方とも同轉^{ひらび}作もり
 其作と茅負留の轉^{まわ}か桶中墨と振違^{ちが}あるなり
 一屋根勾配何寸亦隅振何程^あても此振圖^づの理方あり
 一鶉栓と隅大榼^たも用も依^よて大榼と組物の部に著^つあり

大工心置角不ぬ老之下

十三

九二初八音角初刻卷之

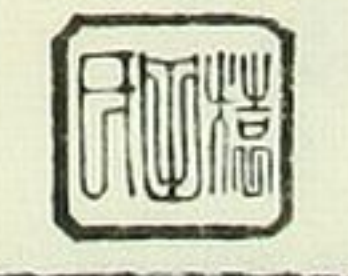
明治十四年十二月五日板權免許
明治十五年二月廿日出板

東

著述人

千葉縣上原平民

猿田長司



水所區柳原町
三番地寄留

京

出板人

須原屋壯太郎

京橋區南傳馬町
三丁目五番地

